

令和5年度 第4回 藤沢市市民活動推進委員会 議事録

1 日時

2023年（令和5年）7月1日（土）午後1時～午後6時13分

2 場所

藤沢市役所本庁舎5階5-1会議室

3 出席者

(1) 委員 8人

山岡委員長、坂井副委員長、入内島委員、大場委員、関野委員、豊福委員、新實委員、森田委員

(2) プレゼンテーション参加団体 計11団体

＜スタート支援コース＞ 6団体

- ・湘南台で映画「夢みる小学校」を観る会 ・高校生ミュージカル Aqua
- ・サニーデイスーフクラブ片瀬西浜 ・江の島ティラノサウルスレース実行委員会
- ・藤沢市プレスクール教室 ・あさがおプロジェクト

＜ステップアップ支援コース＞ 5団体

- ・湘南市民ワークショップ ・特定非営利活動法人 湘南マンション管理組合ネットワーク
- ・ふわふわの会 ・NPO 法人 とことこ ・特定非営利活動法人 湘南FP相談室

(3) 事務局 7人

川口部長、日原参事、森主幹、緒方専任主査、伊佐治主任、川島主任、黒川職員

(4) 伴走支援者 3人

関内イノベーションイニシアティブ株式会社 治田氏、高瀬氏、関尾氏

(5) 傍聴者 6人

4 議題

令和5年度ミライカナエル活動サポート事業（スタート支援コース・ステップアップ支援コース）の審査選考（2次審査）について

- (1) プレゼンテーション (公開)
- (2) 審査選考 (非公開)

5 開催概要

開会

藤沢市市民活動推進委員会

○事務局の川口部長より冒頭に挨拶が行われた。

(山岡委員長) それでは、ただいまから令和5年度第4回藤沢市市民活動推進委員会を開会いたします。初めに、委員会の成立要件について、事務局よりお願いいたします。

○事務局から成立要件について説明が行われた。

(山岡委員長) それでは、本日の委員会はスタート支援コース・ステップアップ支援コースのプレゼンテーション審査となりますので、この後の進行につきましては、坂井部会長よりお願いいたします。

÷÷÷

スタート支援コース・ステップアップ支援コース審査選考部会

(坂井部会長) それでは、スタート支援コース・ステップアップ支援コース審査選考部会を開会いたします。

プレゼンテーションに先立ちまして、本日、審査に当たる委員をご紹介いたします。順に自己紹介でお願いいたします。

○各委員から自己紹介が行われた。

(坂井部会長) 本日は大場委員がオブザーバーとして出席されています。

それでは、事務局より、資料確認及び本日の日程等について説明をお願いします。

○事務局から資料確認及び日程等について説明が行われた。

÷÷÷

(1) プレゼンテーション

スタート支援コース

①湘南台で映画「夢みる小学校」を観る会

(坂井部会長) それでは、これよりプレゼンテーションを行っていただきます。

まず、スタート支援コースの発表です。湘南台で映画「夢みる小学校」を観る会の「中高生のためのコメディワークショップ他」について発表をお願いします。

(湘南台で映画「夢みる小学校」を観る会) こんにちは。湘南台で映画「夢みる小学校」を観る会の松元です。

(湘南台で映画「夢みる小学校」を観る会) 平松と申します。

(湘南台で映画「夢みる小学校」を観る会) よろしくをお願いします。

中高生のためのワークショップをこの9月に企画をしております。もともと私どもは音楽療法士3名で、2019年から地元の湘南台で「うたごえ倶楽部」を実施している団体がもとになって、いろいろな映画を上映してまいりました。

2019年から「うたごえ倶楽部」を月に1回開催し、2022年5月に「かぐやびより」を自主上映し、11月に地区社協の研修でも「かぐやびより」を上映いたしました。

12月が私どもの団体の一番の目的であった、映画「夢みる小学校」を観る会ということで、合計590名の方に来ていただきました。

ことしに入りまして、4月に「僕とケアニンとおばあちゃんたち」という映画を計4回上映いたしました。6月には応援していただいておりますFプレイスで「いただきます2」を上映し、240名の方に来ていただきました。

主に映画を中心に活動してきました。映画の上映の中でいろいろな人たちが参加してくださったわけですが、集客とか、自分たちなりにとても苦労いたしました。結果的には「夢見る小学校」という映画が、映画というだけではなくて、1つの社会現象になっているのではないかということを感じ始めました。

今もこの映画は自主上映会がずっと続いているのですけれども、この中にこの映画をごらんになった方がいらっしゃるかどうかわかりませんが、これだけ日本全国で上映されていることには何か意味があるのかなと思いました。

そのようにやっていく中で、1つは、ご質問にもたくさん書いていただいてありがとうございます。何でワークショップなのかと。確かにパッと聞くと、中高生のワークショップと映画とは何か関係があるのかという感じです。

実は上映というのは、その後いろいろなトークセッションなどをやって、感想を述べたり、話し合ったりしているのです。その中で、媒体は映画ですけれども、ワークショップというのは自分からやることになります。この映画に触発されて、自分がいろいろな見方をしたり、その映画を見た後の生活が変わってくるというようなことが実際に見

てとれました。

その中に特に中高生があまりいないなというのがある。子どもさんたちはたくさん見に来てくれたし、40代から80代ぐらいまでの年齢の方はすごくたくさん見に来てくださったのですけれども、高校生は残念ながら1人だったのです。中高生とは私もあまり接点がないので、どんなことを考えているのかなと思いました。

その中でワークショップは、ここにはあるのはスタンダップコメディのヤノミ、日本的に言えば芸人さんです。ヤノミという人とはもともと知り合いなんですけど、彼女が今までやってきたワークショップが推薦されました。対象は毎回違いますが、今回は中高生のためのワークショップを企画しました。

やることは決めていて、質問の中にもたくさんあったのですが、中高生をどうやって集めるのか。確かにそうですね。私たちもいろいろな映画をやってきた中で、いろいろな方とつながっております。あまり学校に行っていないような方のサポートをしていらっしゃる団体ともつながって、もちろん教育委員会の後援をもらったりして、チラシもあちこちまいております。そういった個人的なつながりで人を集めていこうかなと思っております。

あとは、この前ヤノミがやったこみゆにけーしょんワークショップがあります。去年3月オリンピック記念青少年総合センターでやったときの感想をご紹介します。

1人は、「やる前はちょっと怖かった。でも、みんなのことがおもしろくわかって楽しかった」。それから、これは何日間かやったのですが、「前日に見て、ハードル高いと思ったけど、実際にやってみると、皆さんの雰囲気も含めて、すごく話しやすく、雰囲気って大事だなと思いました」。また、「どうなるんだろう。しゃべれるんだろうか。怖かったけど、本当にささいなことがおもしろく聞こえたり、みんな、こんなにしゃべれるんだという驚きがあった」。

正直、人の前で自分の欠点などをさらけ出してコメディをつくることはとても怖いことだと思いますし、人の前でしゃべるのはすごく大変なことだと思います。時間は3時間の予定ですが、15人にその体験をしてもらいたいというのが今回のワークショップの趣旨です。

あと、「中高生とかかわる予定があるんですか」というご質問もいただいております。これは正直やってみないとわからないのですけれども、皆さんのイメージの中では、中高生とはどういうものがあるかわかりませんが、こういうことに興味を持ってくれる方

がきつといらっしゃると思っていて、希望があれば参加していただきたいと思っております。無理強いはしません。

以上です。

(坂井部会長) では、これから質問に移りたいと思います。発表が終わりましたので、委員の皆さん、質問のある方はお願いいたします。

(内内島委員) 映画「夢みる小学校」ですが、すみません、私見てないものですから、どんな映画なのか、簡単に伺えればと思います。

あと、ワークショップでは500円を取られるということです。500円が高いか安いかわという問題もあると思いますが、せつかく助成金も使うので、そこはもう少し何かできないか。無料とは言いませんが、500円取らなくてもできないかなと思ったので、その辺いかがかなと思いました。

(湘南台で映画「夢みる小学校」を観る会) 「夢みる小学校」についてご質問ありがとうございます。南アルプス子どもの村小中学校という私立の学校が南アルプス市にございます。堀さんという方がニールの教育論をもとに開設し、全国に5カ所ある自由教育の学校です。先生はいません。時間割がほぼない。それから体験学習、自発学習です。自分から課題を見つけてやっていく。そういう学校を題材にした作品です。

それから、去年の2月から8月まで、あちらこちらの映画館で、藤沢市ですと、シネコヤさんでやりましたし、シネマ・ジャック&ベティとか、そういった独立系の映画館でやった後、8月から全国で自主上映しました。要するに、みんなで動いて人を集めてやっております。今現在まで、6万人の方が全国で自主上映をされております。ホームページを見ていただきますと、ものすごい勢いになっていて、この間、監督ともお会いしましたが、本当に監督の手を離れているという感じがします。

あと、料金のことですが、最初提案したときにも、ゼロにしてはどうかというようなことは伺ったのですが、これは私の考えですけれども、やはり500円でも自分のお金を出して参加してもらいたいなと思います。最初1000円だったのですけれども、やはりお金を出して体験してもらいたいということで、あえて500円にしました。そんなわけです。

(森田委員) お話を伺って初めてその経緯がわかったところがあるのですが、団体さんとしては、やはりこの映画を広めたい。だけど、高校生の層がないので、まずは高校生のことを知りたくて、ワークショップをされたということなのではないでしょうか。

単純に考えると、質問状にもあったように、いろいろ生きづらさを抱える高校生たちがいきなりワークショップとなったりすると、やはりハードルが高いかなと。むしろ映画にたくさんの高校生を参加させることをもし目的とされているのであれば、また違ったアプローチもあったのではないかと思います。

今後の皆さんの団体の方向性として、映画を広めたり、映画祭をするということを目的にされているのか、それとも、映画の効用として、何かをきっかけとして変わるといったところで、ワークショップをされて、今後そういった人の変化とか成長のほうにシフトされるのか、その辺を伺えればと思います。

(湘南台で映画「夢みる小学校」を観る会) 本当に鋭い質問をありがとうございます。私の中ですごくつながっているのですけれども。

さっきも少し言いかけてましたが、映画というのは1つの作品です。媒体は映画館とか映像なわけですけれども、それを見た人の気持ちの中には、皆さん違う気づきというか、何か思いがあって、日にちがたっていくに従って、映画というのは印象が変わってくるし、2回目、3回目だと全然違うということがあります。

映画も1つの作品ですが、それが何でワークショップとつながるかという、ワークショップはどうしても自分から何かしなければいけない。いけないこともないのですが、出かけて行って、自分のことですから、自分はわかっているつもりでも、わからないこともある。自分の中のもやもやしたものを形にしていく。その2つはつながっているのですけれども、そこはうまく説明できていません。

映画祭は3年後に湘南台でやりたいなと思っています。幾つかの場所でやりたいなとは思っているのです。映画はただの媒体で、地域コミュニティという格好いいのですが、お祭りとかなんとかではないもので、湘南台のなるべく近くで、そういうことができるようにしたい。そういうやや不安定な感じですが、そういう何とも言えない思いです。

さっき言いましたように、9月に参加してくれる子が、もし継続してかかわりたいと言ってくれば、映画の選定のほうに入ってもらおうということは考えていますし、ワークショップもまだ幾つかあるので、企画はどんどんあります。ただ、あまりにも大変だったら、ちょっと難しいかなと思います。映画祭のほうは目的としては持っています。答えになってなくてすみません。

(森田委員) ということは、ここに参加された高校生が、いずれ映画祭の企画や運営にか

かわっていただくことも、つながりとしては考えていらっしゃるということですか。

(湘南台で映画「夢みる小学校」を観る会) 中学生、高校生、今悩めるとおっしゃっていましたが、どんなふうなのか、本当にわからないのですね。中には絶対いらっしゃると思っております。ただ、いらっしゃったら参加していただくとは思っております。

(関野委員) 今回申請されているのが申請補助金額の満額の半分以下という形になっているかと思えます。計画上こういうワークショップ1回ですよ。満額で2回とか、別の予定されているワークショップも申請に含めることも選択肢としてあったと思うのですが、そうしなかった理由が何かございましたら教えていただければと思います。

(湘南台で映画「夢みる小学校」を観る会) 決めつけてしまっただけかと思えました。中高生、怖いだろうけど、とにかくここに参加してちょうだいということを示して、結果的にどうなるか、そういう子たちがその中にいれば、結果として参加していただきたいと思えます。なので、予算には入れられなかったということです。

(坂井部会長) それでは、時間になりましたので、質問は以上といたします。

湘南台で映画「夢みる小学校」を観る会の皆さん、ありがとうございました。どうもお疲れさまでした。(拍手)

団体の入れかえをお願いします。

(団体入れ替え)

②高校生ミュージカル Aqua

(坂井部会長) 続きまして、高校生ミュージカル Aqua の「高校生ミュージカル@地域部活」について、発表をお願いします。

(高校生ミュージカル Aqua) こんにちは。高校生ミュージカル Aqua の小泉です。

(高校生ミュージカル Aqua) 浅川です。よろしくお願いします。

(高校生ミュージカル Aqua) 突然ですが、皆さんは今夢を持っていますか。大きくなればなるほど、私たちは夢を見ることを恥ずかしがったり、挑戦から逃げたりするようになっていく気がします。でも、きっと多くの方は、幼いころ大きな夢を抱いていて、そのときのワクワクしていた自分が、今も心のどこかに残っているのではないのでしょうか。私は今夢を見つけ、ワクワクしています。皆さんも私たちと一緒にそのワクワクをもう一度味わってみませんか。

高校生ミュージカル Aqua とは、私が昨年末から構成を始め、ことし4月から始動した、地域を拠点とした高校生のミュージカル団体です。地域の方と協力しながら、高校

生中心に企画、運営、演出を全て行います。私たちは学校の部活とは違う新たな部活の形を創造します。

(高校生ミュージカル Aqua) Aqua は来年3月30日、藤沢にある新堀ライブ館にてオリジナルミュージカルを上演します。出演者は15人、観客は2公演で400人を目標としています。目的は、ミュージカルを通して自己成長、自己発見をすること、地域を活性化させることです。

では、先ほど述べた新しい部活の形を創造するとはどのようなことなのでしょうか。私たちは高校生になって、学校生活は楽しいものの、本気で頑張りたいと思える部活を見つけられませんでした。私たちの周りにも、学校での居場所を気にして、部活について悩んでいるという声をよく聞きます。

(高校生ミュージカル Aqua) そのような人が高校生活の間、自分が思い描く環境がないからという理由で、やりたいことに挑戦できず、諦めてしまったら、大きな後悔が残るのではないのでしょうか。そこで、私たちは新しく地域の部活を確立させたいと思います。

(高校生ミュージカル Aqua) 現在日本では部活動の地域移行が進んでいますが、それにはさまざまな形があります。このように同じ学校のメンバーで、地域の施設やチームを軸に活動するものや、幾つかの学校が合同になって行うものもあります。私たち Aqua が行う地域部活の形は、学校の枠にはとらわれず、さまざまな学校に通う生徒が集まり、1つの地域を拠点に活動する形です。

(高校生ミュージカル Aqua) 地域だからこそ、学校を超えて、自分と同じ興味を持つ人と出会ったり、地域の企業や団体とコラボレーションしたりできます。1から自分たちで団体をつくっていくという体験は、予想外の発見にもつながり、新たな選択肢や可能性を広げることができます。

(高校生ミュージカル Aqua) ここからは私たち Aqua の活動についてお話しします。

現在私たちは Aqua のファンをふやすこと、資金集めをすることを大きな課題としています。そのため、地域行事に積極的に参加します。これまでは4月に「Shonan SDGs Festa」、6月に「鎌倉を盛り上げようの集い」に参加し、宣伝やプレゼンを行ってきました。1つの舞台をつくり上げるには、出演者だけでは成り立たないため、このような活動を通してファンをふやし、メンバーを初め、観客、応援者、協賛企業など、地域の人みんなと Aqua をつくっていきます。

(高校生ミュージカル Aqua) 実際に私たちは現在、藤沢市のミュージカル団体「SAS

P」の協力を得ています。現在はこのようなサポートをしていただいています。また現時点では、今後、主に藤沢市内で行われるイベントでのパフォーマンスを考えています。カフェの方と私たちが協働で主催するイベントの企画も予定しています。

(高校生ミュージカル Aqua) 次に、お金の問題についてです。

審査委員の方々のご意見をもとに、大まかになっていた予算について見直してみました。また、舞台監督、メンバーの保険、音源の著作権など、見落としていた費用についても追加しました。

(高校生ミュージカル Aqua) 私たちは、ただ楽しむだけでなく、出演したメンバーが大きな成長を感じられ、そして観客もクオリティの高さに圧倒されるようなミュージカルをつくりたいです。そのためには、パフォーマンスのレベルはもちろんですが、本格的な設備や指導など、多額の費用がかかります。

(高校生ミュージカル Aqua) そのため、私もそうでしたが、特にお金のかかるミュージカルは、経済的な理由から挑戦を諦めてしまう人が多いように感じます。だからこそ、私たちは、参加者の費用負担はできるだけ抑えて活動を行いたいです。

(高校生ミュージカル Aqua) 助成金が獲得できた際には、まず、本番公演の場所を確保するため、ホール代に使いたいと思います。残りは練習場所や広報費に活用し、団体体制確立のための資金とします。そして助成金だけでなく、企業協賛も活用して、お金を集めます。企業の方に協賛金や物資を提供していただき、私たちは本番で会社の宣伝を行います。

(高校生ミュージカル Aqua) 以前、私たちは、藤沢商工会議所の事務局長さんに、このプロジェクトについてプレゼンをし、ご後援をいただくことになりました。これから協賛文書をもとに協力を呼びかけていただきます。

(高校生ミュージカル Aqua) また、イベントでの宣伝効果により、現在3団体ほどご支援を表明していただいているため、今後もイベントでの宣伝を続けていきます。協賛は1万円から設定しているので、個人の協賛もいただけるよう努めていきます。ほかにもチケット収入を考えています。

(高校生ミュージカル Aqua) 最後に、Aqua のこれからと地域の未来についてです。

現在は、出演者7人、裏方4人の高校生メンバーが集まっています。Aqua は今年度の本番が終わったら解散し、来年度はこれまで作り上げてきた仕組みをもとに、新しいメンバーで活動を予定しています。そのため、秋のイベントから来年度の募集を始め、

何年も何十年も Aqua が継続し、地域部活も Aqua も当たり前で認知される未来を目指します。

(高校生ミュージカル Aqua) しかし、実際に活動してみて、さまざまな地域からメンバーが集まることなどから、市の施設の利用条件を満たさない、レンタルスタジオは利用料金が高いといった理由から、練習場所は十分ではありません。

(高校生ミュージカル Aqua) そこで、私たちこの Aqua という地域団体が、市や公民館、学校や企業などと連携して、私たちの活動の拠点となる場所を確立させたいです。もしこれが確立できれば、私たち以外にも新しい地域部活が誕生しやすくなるのではないのでしょうか。私たち Aqua の活動が先例となり、地域部活を行う意義や実現性を示します。そうすることで、サポートがふえ、新たな地域部活が誕生します。そうしていくことで、今までやりたいものにやりたい形で挑戦できなかった人たちに、可能性や選択肢を与えたいです。

(高校生ミュージカル Aqua) それぞれが、自分が好きだと思える生き方を見つけ、生き生きと暮らせる人がふえれば、お互いのワクワクを分かち合い、応援し合えるような人の輪が深まる地域になると思います。これが私たちの思い描く未来です。

以上です。ありがとうございました。(拍手)

(坂井部会長) それでは、発表が終わりましたので、質疑に入ります。質問のある委員の方はお願いします。

(入内島委員) 参考までに聞きたいのですが、地域部活をやられるということで、現状の学校の部活にはどんな問題があるのか。それには問題意識を持っていらっしゃいますか。もしあれば教えていただきたいなと思って質問しました。

(高校生ミュージカル Aqua) 今は学校で部活をやるという意識がすごく根づいていて、私も学校を選ぶ際に、この学校に行きたいけど、あそこの部活をやりたいみたいな感じで、すごく迷った部分がありました。実際、学校に入ってみて、やりたいことと学校が必ずしも結びつかなくてもいいのかなと思っています。やりたいことがあるからその学校に行くという固定概念というか、そういうことだけではないなと思います。

あとは逆に、この学校の部活に入りたいなと思って入ってみたけど、実際は、思っていたよりハードだったとか、思っていたよりやる気がなかったとか、そういうことがある。でも、学校はもうかえられないじゃないですか。そこで立ちどまって悩む人がすごく多いなというのを、私も含めてですが、すごく感じています。

(山岡委員長) 発表ありがとうございます。すばらしいプレゼンテーションで、さすがミュージカルをやっておられるだけのことはあるなと思って聞いていました。あと、こういうところに高校生が来て、プレゼンテーションしてくれるというのは、私としては初めてなので、すごく新鮮でしたというのが感想です。

1つ質問は、最後のほうに、今年度で解散して新たなメンバーを集めるというのがよくわからなかったです。別に解散しなくても、新たなメンバーを集めて続けていけばいいのではないかと思ったのですが、どうして解散されるのかというのを教えてもらえますか。

(高校生ミュージカル Aqua) これは私の見解になるのですが、団体がどんどん続いていて、初めに決めた決まりをずっと守っていったりというふうが続いていくと、最初の新鮮さが薄れていくのをすごく感じます。私はこの団体に対してこうあってほしいとか、こういう仕組みでやっていきたいという思いもあるのですが、実際に集まってくれたメンバーと話す中で、ここはこう違うんだとか、もっとこうしたほうがいいんだとか、気づいていったのですね。

だから、もしこれからやってくれる人があらわれたときに、私がやりたいものと、その人がやりたいものは違うのかなと思っています。今いるメンバーが、私の思いを引き継いでいてほしいんですけども、その仕組みを全部引き継いでいくよりも、その人たちがそのときにやりたいような形で、新鮮さを持ってやってほしいなと思ったので、1回解散して、また新しくするという形にしました。

でも、今まで私たちがつくり上げてきた土台とか、つながりとか、そういうのは引き継いでいただきたいなと思いますし、ことし参加して、もう一回参加したいなと思ったメンバーには、もう一回参加してもらいたいと思っています。

(山岡委員長) 何となくわかりましたけれども、では来年は今いるメンバーが誰もいなくなるということですか。

(高校生ミュージカル Aqua) それは今の時点では決まっていません。私たちは今高校2年生で、来年は高校3年生になって、すごく忙しくなってしまうので、私たちは出演者ではなくて、そういう裏方としての団体のサポートで携われたらいいなと思っています。ほかのメンバーでも来年やりたいという人がいれば、やってもらいたいなという感じです。

(山岡委員長) わかりました。評価の審査基準のところに「事業の継続性」というのがあ

ります。解散というと終わってしまうのかなと思うのですが、そうではないということですね。

(高校生ミュージカル Aqua) はい。Aqua 自体はずっと続いて行って、メンバーが新しくなるという感じです。

(坂井部会長) 今の質問に関連して私から伺います。団体さんで規約会則を持っていらっしゃると思います。そこに正会員と賛助会員があるのですが、正会員というのはどういう人ですか。皆さん高校生ですか。

(高校生ミュージカル Aqua) 正会員も賛助会員も、会員となる人は全て高校生です。私たちは出演するメンバーを正会員としています。また、出演しないけれども、例えば今はチラシをつくったり、いろいろなところに連絡したり、今後は舞台に使う道具をつくったり、そういう裏方的な形でかかわってくれるメンバーもいます。だから、会員は全て高校生で構成しています。

(坂井部会長) わかりました。立派な会則もつくっていらっしゃるので、事業の中身は毎年見直しするとしても、器としての Aqua というのは、つながっていてもいいのかなという感想を同じように持ったものですから。

(高校生ミュージカル Aqua) そのように考えています。

(坂井部会長) 団体はこの春にできたんですね。

(高校生ミュージカル Aqua) この春から練習をやっと始めることができます。

(新實委員) 高校生がこのようなところでプレゼンをしっかりとされたことは本当にすばらしいなと思いました。

今2人はそれぞれ学校が違いますけれども、今現在8名の高校生の方たちは何校から集まっておられるのかお聞きしたいです。

それと、賛助会員と正会員の差というのは、説明を聞いてちょっと違和感を持ちました。できたら別に正会員と賛助会員に分ける必要はないのではないかと。ごめんなさい、これは外側から見た単なる感想です。

あと、中学の部活が地域移行していく流れと同じ方向性の活動で素晴らしいと思いました。コメントされたことを受け止めしっかりと将来を見据えてプレゼンされていると思いました。半面、継続性に対してのゼロから新スタートというのは、ちょっともったいないなと思いました。

できたら続けていただきたい。もちろん入試とかいろいろで忙しくなるので、わかっ

ているのですけれども、このような形でゼロベースでと言われると、ちょっと不安になってしまいます。思いはすごく伝わりましたが、今のメンバーの中で、ゼロになるのではなくて、ゼロにならないような形で引き継いでいただけたらありがたい。こちらとしては応援しがいがあると思いました。

(高校生ミュージカル Aqua) たくさんご質問をいただいたのですが、まず体制のことから回答しようと思います。少し言い過ぎの部分があつて、ゼロからというのは、体制自体をゼロから変えるというよりは、メンバーがゼロから一新するという意味です。私たちがこれまで築き上げてきたものとかはそのまま引き継いでいく形で、ゼロからというよりは、新しいメンバーで、さらによい団体をつくってほしいという思いでこの説明をしたのですけれども、少し誤解が生じてしまってすみませんでした。

いろいろな学校から集まるという話で、現在は7つの学校から集まっています。

あと、正会員と賛助会員については、すごく差をつけているというわけではないです。差をつけたくてやったというよりも、本当にみんなが正会員みたいな形で、みんなもたくさんかかわってくれるし、私もそういう思いでおります。そうやって、出演者ではない第三者といいますか、外からの意見もという。

失礼しました。そうですね。正会員と賛助会員を分けたことについては、そこまで深く意味を持っていなかったのが正直なところです。

(坂井部会長) それでは、時間になりましたので、以上で終了といたします。

高校生ミュージカル Aqua の皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。

(拍手)

では、団体の入れかえをお願いします。

(団体入れ替え)

③サニーデイスーフクラブ片瀬西浜

(坂井部会長) 続きまして、サニーデイスーフクラブ片瀬西浜の「安心安全な片瀬西浜サーフ&クリーン事業」について、発表をお願いします。

(サニーデイスーフクラブ片瀬西浜) 初めまして。私はサニーデイスーフクラブの木戸と申します。隣は会長の福田です。よろしくをお願いします。

まずは、私の自己紹介と団体のボランティア活動内容をお話しさせていただきます。

私は15年前に、結婚を機に大和市より藤沢市へ移住してきました。理由は趣味のサーフィンと仕事の両立のため、家庭を持ち、子育てをする環境として、この藤沢の海岸

沿いの生活に大変魅力を感じたからです。現在も子育てをしながら、サーフィンと仕事の両立ができており、移住して本当によかったと思っています。

そんな海とかかわる生活を送っているうちに、次第に海岸周辺の汚染問題やごみ問題に目を向ける機会も多くなっていきました。SDGsなどの言葉も頻繁に耳にするようになった3年前の2020年から、時間があるときに近所の砂浜のごみ拾いを始めたのが現在のビーチクリーン活動の始まりです。砂浜をはだして駆ける子どもたちを想像しながら、ガラス片やクラゲでけがをしないようにと、砂浜のごみを拾っていました。

サニーデイサーフクラブ片瀬西浜というボランティア団体は、サーフィンとビーチクリーンをする中で知り合った方々と結成しました。同じ趣味を持つサーファー仲間として、海洋汚染や海岸美化への思いは共通でした。

そして2021年7月からボランティア団体として活動を開始しました。安心安全な片瀬西浜海岸を目指して、今では月に2回ほど、年間で24回ほど集まり、早朝のサーフィン後にビーチクリーンをしています。我々はこれをサーフ&クリーン活動と呼んでいます。

この海を愛するサーファーによる自然なサーフ&クリーン活動を、片瀬西浜から市内の海岸全域へと広げていくことが我々の目標です。そして海外では文化として定着している、サーファーが当たり前のようにごみ拾いをする光景を湘南・藤沢から日本中へ発信していきたいと考えています。

海岸に漂着するごみは、7割が川より流れてきていることをご存じでしょうか。大雨後には、流れ出たごみが大量に海岸へ流れ着きます。早朝にサーフィンをすると、前日とは一変している海岸の風景に驚くことがあります。

回収ごみは、藤沢市指定集積場所へ運び、かながわ海岸美化財団の委託業者が回収して、燃えるごみと燃えないごみへの分別後に処理をするという流れになります。ごみの中には、危険物、ガラス片、毒クラゲもありますので、この機会にメンバーがボランティア保険へ加入することは、ボランティアメンバーにとってはとてもありがたいことです。

こちらは、片瀬西浜ウッドデッキ前付近の市の指定集積場所になります。以前はネットを押さえるパイプや塀もなかったため、強風でごみが飛んだり、カラスがごみを荒らしてしまい、集めたごみが散乱しているという光景がしばしばありました。

そこで、会長の福田が周辺ボランティアの代表意見としてかながわ海岸美化財団へ提

言したところ、現在のような壁をつくり、重さのあるパイプでネットを押さえる方法へと変わりました。このように、現状の課題点にいち早く気づき、地域ボランティアの意見を集約し、改善策を考えて、現場意見としてほかの団体への提言も行っていきます。

以前は、海岸清掃用ボランティア用のごみ回収ボックスは4カ所ほど設置されておりました。拾い集めたごみを回収していただき、とても助かっていましたが、毎年夏シーズンにふえる観光客による不法投棄問題への対処として、昨年9月に完全に撤去されました。

現在は指定の集積場所にビーチクリーンごみを置くスタイルに変更となりましたが、同時に、ビーチクリーンを始める人が、ごみの捨て場所がすぐにわからないために、ごみを持ち帰らなくてはならず、気軽にビーチクリーンを始めづらい状況となっております。そこで、我々は、不法投棄につながらないような独自の周知の仕方を考えて実践していきます。

具体的には、適切なビーチクリーンに対する知識とともに、回収ごみの集積場所を伝えていくということです。ボランティアのビーチクリーン活動家の多くの方は、かながわ海岸美化財団さんよりビニール袋、ブルーシップさんよりトングの提供を受けて活動しています。

おかげさまでビーチクリーンを通じて、さまざまな方と出会うことができ、情報交換を行っています。周辺サーフショップのスタッフにより合同で行われている鵜沼ビーチクリーンクラブ（KBCC）の月1回の定例ビーチクリーンなどにも出席して、現場レベルでの意見交換を行っています。

写真は、早朝の砂浜です。早朝にサーフ&クリーンを行うと、さまざまなよいことがあります。ほかのビーチクリーン団体と我々の団体との違いの話にもなりますが、サーフィンをする人は、早朝から活動する人が多いです。サーファーは、まだ人気のない海岸を手際よく清掃することができます。また、ほかのボランティア団体の方々と時間をずらして清掃活動をすることで、海岸の美化を保持することができます。サーファーがごみを拾うことでもたらされる効果は、観光事業の側面からも大きな力になると考えています。

安心安全な片瀬西浜サーフ&クリーン事業の計画についてです。定例として平日早朝サーフ&クリーン活動、コアメンバーのボランティア保険加入によって、早朝の活動メンバーをふやし、サーフ&クリーンの習慣化を広げていきます。

毎回1～2名、ゲストメンバーを招待し、平日早朝サーフ&クリーン活動を周知します。活動内容を周知することで、広がり効果を期待していきます。

鵜沼ビーチクリーンクラブ（KBCC）のビーチクリーンへ参加します。毎回100名規模で、年10回あります。既にある団体とも積極的に情報の共有をしていくことで、ビーチクリーンの活性化に働きかけます。

8月のメンバー勉強会は、ビーチごみの安全な拾い方と集積場所についてレクチャーをします。講師はビーチクリーンアドバイザーでもある会長の福田が行います。安全な拾い方、分別方法やごみの最終的な行方など、得た知見を共有していきます。

9月にはサーファーズ・バーベキュー、100名規模でのPR活動をします。ステッカーを配布します。活動の周知を目的として、サーファーによるイベントへ積極的に参加していく予定です。

10月には千葉県へ出張し、サーフ&クリーンをします。地元活動家と協働で活動を行い、ほかの地域のモデルケースなどを学ぶことで視野を広げ、地元での活動へ生かしていきます。

12月には講師を招聘して、20名規模の勉強会を開催します。講師は海洋研究家の許先生を予定しています。専門性の高い知識を得る機会をつくり、質の高いビーチクリーン活動家をふやしていきます。

また、随時、海に浮かぶプラごみの回収体験を予定しています。ポケットつきビブス着用にて行う予定です。

PR活動はInstagramとフェイスブックでの広報活動になります。ロゴステッカーの配布、コアメンバーへはロゴ入りサーフ帽子を配布します。藤沢市環境総務課、かながわ海岸美化財団、藤沢市観光課との定期交流、情報共有、活動提案を行っていきます。

ノベルティのデザインについてです。このような形のデザインを考えています。

我々は、現在推定20名のサーフ&クリーン活動家を、来年には30名に、3年後には100名を目指して活動していきます。藤沢全域でこのサーフ&クリーンが根づくことを信じて日々活動していきます。

以上で我々サニーデイサーフクラブの説明を終わりにしたいと思います。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

（坂井部会長）発表が終わりましたので、質問に移ります。質問のある委員の方はお願い

いたします。

(入内島委員) サーフィンをやられる方というのは、やはり砂浜の美意識、要は環境の意識がすごく高いと思います。ごみを捨てられる方は、ほとんどが遊びに来られる方々です。

そういう啓蒙活動をこれからいろいろな団体と共有していくということもお伺いしているのですが、12月に講師を招聘して勉強会をされるということですか。ここに呼ばれるのは基本的にはメンバーの方になるのですか。それとも広く募集して、サーフィンをやられる方以外にもそういう勉強をしていただくような機会を設けるのか、それだけちょっと教えていただきたいと思います。

(サニーデイサーフクラブ片瀬西浜) メンバープラス、我々のほかにも仲間がいますので、またインスタグラム等を通じて、事前にそういった呼びかけをして、20名程度は十分集まるかなと思っております。ほとんどサーファーの方が対象になります。

(入内島委員) できれば今後はサーフィンされる方以外にも、例えば最近では地引き網などをすると、上がってくるのはほとんどごみみたいな話もあるようですので、そういうところにも活動の幅を広げていただく。まずは地元レベルでいろいろな方といろいろな問題意識を共有していただいて、安心安全な砂浜は藤沢市の本当に大事な観光資源でもあると思うので、長いスパンで活動していただければと思います。

(サニーデイサーフクラブ片瀬西浜) ありがとうございます。

(森田委員) さまざまな提案をされて、それがちゃんと行政のほうにもつながっているというのは、市民活動としてとてもすばらしいなと思いました。

伺いたかったのは、予定のところで、ゲストメンバーを招待するということがあります。質問にも書かせていただいたのですが、どういった方に、どういった効果を念頭に企画をされているのかということをお教えください。

(サニーデイサーフクラブ片瀬西浜) 環境に対する意識が比較的高いサーファーの方でも、なかなかビーチクリーンを始めづらいという方が結構いらっしゃいます。やり方がわからないとか、かっこ悪いとか、そういったところを、ちょっと背中を押してあげる意味で、我々がお声がけする。

そういった対象の方も、インスタグラムやフェイスブックを通じて、もう既に海でも何度もお会いしたような方もいらっしゃいますので、メンバーが順繰りに毎回1~2名ずつお呼びして、一緒にそういった活動をする。きちんとしたごみの拾い方と、回収場

所へちゃんと誘導してごみを捨てるやり方をお教えすることで、次のステップにつながっていくのかなと思っています。

(森田委員) 私がイメージしたのは、何か有名サーファーみたいなタレントさんのよう人を招聘して、人集めをしようとしているのかなと思ったのですが、そうではなくて、日ごろちょっと顔見知りで、メンバーではないけれども、気になっている方にお声をかけるということなんですね。

(サニーデイスर्फクラブ片瀬西浜) 主にそうですね。もちろんその中にはプロのサーファーの方もいらっしゃいます。平日の朝、海に入っている方が結構いらっしゃるので、そういった方にお声がけして、一緒に活動していきましようということでやってまいります。

(森田委員) そうしますと、全体的に活動が、現実的かもしれませんが、ちょっとずつふやしていこうみたいなイメージがあります。やはりビーチクリーンの課題とかは、かなり深刻であったり、より広くいろいろな形で取り組まなければいけないとは思っています。その辺の広げ方とか広報で、何か具体的な策とか、広報の戦略みたいなものがあれば教えてください。例えば具体的には3年後に100名というのも、来年30名からというのちょっと飛躍的になると思うのです。

(サニーデイスर्फクラブ片瀬西浜) 1つは、この2年間同じようにやってきて、なかなかかたえないジレンマがありまして、なかなか定着しないのです。それを加速するために、今回のプログラムで少し背中を押していく意味でもやっていきたい。

それと、サーファーの方もやっぱり忙しいのでしょうかね。その時間、5分、10分がなかなか割いていただけないというところがあります。そこを体験することで、その人の次の流れに持っていくというのが有効かなと思います。そのような意味で、少しずつという印象はあるかと思うのですが、現実そういった部分がございまして、地道にこつこつとやっていきたいと思っています。

(豊福委員) どちらかという質問なんですけど、今の片瀬西浜のごみの現状というのは、サーフィンをされている方々が見られていて、どう感じられているのか。

私は不勉強でわからないんですけども、浜辺をクリーンにする主体者は市が持っているのか、どこかの企業が持っているのか。また、皆さんみたいなボランティア団体がやられているのか。そこもうまくかみ合っているかどうか、やられている方々からしてどうお感じなのか。また逆に、せつかくこういう機会ですから、片瀬浜をきれいにして

いくために、今後どんなことが必要だとお感じになられているか、そんなところを少し教えていただければと思います。

(サニーデイサーフクラブ片瀬西浜) 実は私自身、3年間の活動を、片瀬西浜におけるビーチクリーンの現状と課題ということで、大学院の修士論文でまとめさせていただきました。ここにも書いてありますが、まず、藤沢市が砂浜の清掃をすることになっていまずけれども、実際はかながわ海岸美化財団さんに委託をして、さらに委託された業者さんがやっているために、かなり縦割りになっています。そこも縦割りで、先ほどのごみ集積場所の改善にしても、何度も何度もお願いしてやっと変わったというのがあります。

我々はその橋渡しを担うことで、その縦割りを1つ解消したり、あるいは、かながわ海岸美化財団さんの委託業者は、ちょうど9時から4時ぐらいまでの作業なので、早朝は誰もしないんですね。そこを我々がカバーすることで、海をきれいに保つ。

もっと言うと、安全にしたいんですね。釘とかガラスが落ちていない環境をつくることで、お子さんとかワンちゃんとかも含めて、けがをしない安全な砂浜にしたいなという思いがございます。

(関野委員) 広報に関連する費用を取っていらっしやなくて、インスタグラムを活用されるということですが、現状と、あとどういった内容の投稿をされる予定なのか、お伺いできればと思います。

(サニーデイサーフクラブ片瀬西浜) もちろんインスタグラムの個人アカウントもあって、私も2000人ちょっとのフォロワーがいる状況ですが、メンバーの木戸が3年以上やっているアカウントがありまして、そちらを今回我々のサニーデイサーフクラブのアカウントに切りかえていく。そこをメインに活動の発信や、今後の進捗といたしますか、ふえたメンバーのフォローアップを含めて、インスタグラムとフェイスブックで進めていきたいなと思っております。

(サニーデイサーフクラブ片瀬西浜) 1点だけ補足します。広報なんですけど、今、福田が話したとおり、意識の高い人をしっかりとつかまえていくというか、しっかり情報共有していくというところが一番のポイントだと思っております。すぐに始めて、すぐにやめてしまうという人もやはり多いです。なので、僕らと一緒にやっていくという意識を伝えるためのインスタグラムになります。まずは、声をかけたり、一緒にサーフィンをしている仲間とか、地元の仲間とか、そういった方々をしっかりとコアメンバーと一緒にやっていくためのツールとして、そういった連絡事項とか報告ということで使っ

ていきたいと思っております。

(坂井部会長) 時間となりましたので、以上で終了いたします。

サニーデイサーフクラブ片瀬西浜の皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。(拍手)

それでは、団体の入れかえをお願いします。

(団体入れ替え)

④江の島ティラノサウルスレース実行委員会

(坂井部会長) 続きまして、江の島ティラノサウルスレース実行委員会の「ティラノサウルスレースの企画・運営」について、発表をお願いします。

(江の島ティラノサウルスレース実行委員会) 江の島ティラノサウルスレース実行委員会の坂本です。

(江の島ティラノサウルスレース実行委員会) 栗原です。

(江の島ティラノサウルスレース実行委員会) どうぞよろしくお願いいたします。

私が主催の坂本ですが、ティラノサウルスレースの紹介をする前に、まず、私個人の自己紹介を簡単にさせていただきます。私はふだん市民ランナーとして活動しております。全国の大会、レースにも参加しております。藤沢市の大会で言いますと、ことし1月に開催されました湘南藤沢市民マラソンにおいて、4位という成績をおさめることができました。走りを通じて、多くの方に、運動する楽しさ、そして地域の交流を深めていきたいということもありまして、この江の島ティラノサウルスレースにもつながっております。

それでは、ティラノサウルスレースとはということですが、このレース自体は2022年4月に鳥取県の大山というところで国内初のティラノサウルスレースが開催されました。このティラノサウルスレースは、恐竜の着ぐるみを着て走るという本当にシンプルな競技ですが、ストレス発散になる。そして、この恐竜のかわいらしい動きを見ているのがおもしろいというところもありまして、そこから全国に少しずつ広まっていきました。

藤沢の鵠沼海岸では、第1回は12月に神奈川県初といった形で開催させていただきました。これには藤沢市議会議員の佐賀さん、また、みらい創造財団の皆様にもご協力いただきながら開催に至ったという経緯がございます。佐賀議員には第2回目でサメの着ぐるみを着て参加をしていただきました。

江ノ島での開催の特徴としましては、広大なビーチです。江ノ島と富士山を見渡せるビーチで思い切り走れる爽快感といったところと、あとレース前には必ずビーチクリーンを行っております。やはり思い切り走ってみたいので、ガラスとか釘とか、そういったものが落ちていないかというところで、みんなでしっかりビーチクリーンをして、海に感謝しながら開催しております。そして、鵜沼海岸の商店街で使えるクーポンも参加者に配布するなど、地域密着型イベントといった形で開催させていただいております。

続きまして、参加者の分布図（エリア別）です。藤沢市民の参加はもちろんですが、県外からも多くの参加者がいらっしゃいます。藤沢市民の皆様は回を追うごとにふえていっている傾向ですので、地域密着型のイベントといった形で認知は向上しているのかなと思っております。2回目のときに参加者が209名ということで、この時点で全国で最大規模となっております。3回目につきましては、人数の上限を設定しまして、募集開始の1時間半で定員に達したということで、本当に人気のイベントになってきております。

続きまして、参加者の分布図（年齢・性別）です。40代以上の参加者が約半数以上を占めているような状態です。そして女性の方が多いというのが特徴であります。こちらについては日ごろの運動不足の解消であったり、体を動かすきっかけとして江の島ティラノサウルスレースを活用しているといった印象を受けます。

続きまして、参加者の声です。「とても楽しく体を動かせました」、「こんなに楽しい時間を久しぶりに過ごすことができました」、「次もまた出たいっ!」といった形で、参加者からは、大満足という声と、次回開催を要望するというコメントが多く寄せられております。

今後のイベントの開催予定です。10月に新江ノ島水族館で貸切イベントを行う予定です。イベント自体は参加者を少し絞った状態で、今まで参加していただいた方、新しく参加される方の交流会を目的に実施をしていきたいと思っております。

藤沢市の象徴的な場所でもあります新江ノ島水族館で開催することで、やはり藤沢市のPRにもなるかと思いきや、非日常を味わっていただきたいという思いで開催をさせていただきます。

12月に第4回の江の島ティラノサウルスレースを開催して、ビーチでみんなで思い切り駆け回ってほしいといった思いで開催を計画しております。

続いて、「助成金の活用について」です。開催に当たりまして、さまざまな費用がか

かりますので、そちらに助成金を充てさせていただきたいと思っております。

最後に、「今後の展望について」ですが、2つございます。

まず1つ目が、ビーチスポーツの普及であったり、日常の運動機会の創出です。そもそも、まず、なぜ江ノ島でこのレースをしたのかということですが、私が市民ランナーで活動しておりまして、毎週日曜日の早朝に、江ノ島の鵠沼海岸で砂浜ランというものを主催しておりまして、はだしでランニングを推奨しております。

はだしというのは、やはり足指を使うことで、人間本来の動きやバランスが養えるといったメリットがありますので、このような形でみんなで走っております。こういったことを多くの方に伝えたいということがあったのですが、それでインパクトのある江の島ティラノサウルスレースを開催しました。今後はランニングだけでなく、ビーチスポーツ全般に参加者を促して、運動機会の創出につなげていきたいと思っております。

もう一つが、地域交流です。藤沢市の企業とか、湘南の企業にご協力いただきまして、このレースが開催されております。その企業を通じて、地域住民との交流を図っていきたいと思います。そして、私の地元であります山梨県の北杜市の企業にも協賛いただいておりますので、藤沢市の魅力を伝えながら、観光で来てもらうといった形で、当日も北杜市の市議会議員の方とか、山梨大使の方にも来ていただきました。今後このような形でどんどん広げていきたいと思っております。

以上となります。ありがとうございました。(拍手)

(坂井部会長) 発表が終わりましたので、質問に移りたいと思います。質問のある委員の方はお願いします。

(関野委員) 申請を拝見しまして、ほかの地域でのティラノサウルスレースも調べたのですが、申請内では参加費 4000 円で設定されておりました。他地域の水準と比べると、結構高めなんですけど、この値段設定の理由が何かございましたら、教えていただければと思います。

(江の島ティラノサウルスレース実行委員会) この金額設定というのは、他地域でも、地域貢献とか地域交流といった形で、自治体が主催をしているようなところがありますが、私たちは個人として主催をしております。その中で、参加者の皆さんにより思い切り楽しんでもらいたいといったところもありますので、いろいろとMCであったり、ゲストの方といった形で、みんなが本当に楽しめるようなイベントということで経費を使っております。そういったところで少し金額がかさんでしまうので、金額の設定を上げて、

ほかの地域との差別化をより図ったという経緯で、その金額に設定しております。

(関野委員) では、クオリティアップのためということですね。

(江の島ティラノサウルスレース実行委員会) はい。

(森田委員) 参加者がもっと若い方が多いのかなと思ったのですが、意外と40代以上の女性が多いと。40代以上の女性としてはぜひ参加したい、おもしろそうだというのはあるのですが、何でそうなっているのかなというところが1つです。

あともう一つあります。最初のきっかけが、実際にやっていらっしゃった砂浜はだしランを伝えたいということなのですが、どんなふうに伝えていますか。伝わっているのでしょうか。その辺を教えてください。

(江の島ティラノサウルスレース実行委員会) まず1つ目、参加者は40代以上が多いということですが、実際40代でもその多くが女性の方という状況です。推測なんですけど、やはりコロナ禍といったこともあって、男性よりも女性のほうがストレスをためやすいのかなみたいなのところがある。いろいろと参加者の意見を聞くと、今までの夫に対する不満をぶちまけられましたとか、そういったコメントもいただくような形です。ストレスを発散する場がなかったといったこともありまして、女性の方、40代の主婦層の方が結構多い。推測ではありますが、コメントとかそういった情報で、そういう印象を受けます。

砂浜をはだしで走るというのは、レースを通じてやっています。第1回目は、開会の挨拶でも、ぜひはだしで走ってください、駆け回ってくださいという話をしていて、やっぱりなかなかシューズを脱げないような状況ではあったのですが、回を追うごとに、3回目は大半の人がはだしで走ってくれるような状況になっております。

はだしで走ってもらいたいというのはSNS等でも伝えておりますし、実際に3回目はほとんどの人がはだしで走っていました。はだしで走ると本当に気持ちいいといったお声もいただいておりますので、今後も4回、5回という形で継続することで、はだしで走ることのすばらしさも伝えていけるのかなと思っております。

(森田委員) ティラノサウルスを着ながらはだしで走るということですか。

(江の島ティラノサウルスレース実行委員会) そうですね。

(山岡委員長) 非常にユニークな活動だなと思って聞いておりました。ただ、その一方で、スタート支援ではあるのですが、もう既に2回やっておられて、それなりにお客さんも集まってこられて、なおかつ、満足度も極めて高い。さらに、収支を見ると、全体の事

業費の中で、事業収入だけで120万のうちの100万が賄われているということです。

見方によっては、助成金がなくてもできるのではないかな、満足度も高まっているしという気がします。助成金がなくてもできるのではないですかという問いに対する見解と、仮にもしミライカナエル事業が通らなかつた場合には、どうされるのか教えていただければと思います。

(江の島ティラノサウルスレース実行委員会) 実際のところ、運営費としてはぎりぎりのところで、ちょっと足が出ているような状況で、何とか開催できているのですが、より参加者に満足してもらいたい。このティラノサウルスレース自体はボランティアの方がかなり重要で、ボランティアの方が本当に盛り上げてくれる。

ただ単にお手伝いをするだけではなくて、盛り上げるところまでボランティアの方にお願いしているところがあります。ボランティアさんのクオリティを高めるということで、いろんなところから厳選して来てもらっていて、交通費がかさんでしまうようなところもあります。参加者により楽しんでもらうためのイベント、ゲストもそうですが、そういった経費もかかってしまうので、こういった助成金がいただけるのであれば、もっと充実したイベントができるのかなと思っています。

また、今回通らなかつたとしても、この活動は地域住民の方にも本当にご理解をいただいて、どちらかというところ、県外の方よりも、地域の方から「次いつあるの？」というのをよくお問い合わせいただいたりもするので、地域の皆さんのためにも、この活動は今後もずっと続けていきたいと思っています。

(新實委員) 説明を聞きまして、本当に楽しい活動をされているなと思いました。

先ほど推測で、どうして女性のこの年代の方たちが集まったのかという形で述べられたのですが、できましたら、次回の開催でアンケートをとられたときに、どうしてここに参加されたのですかと、そのような理由も一度問い合わせただけならうれしいです。

(江の島ティラノサウルスレース実行委員会) 次回、4回目をやる際は、そのような形でアンケートをとらせていただきます。

(坂井部会長) それでは、時間になりましたので、以上で終了といたします。

江の島ティラノサウルスレース実行委員会の皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。(拍手)

では、団体の入れかえをお願いします。

(団体入れ替え)

⑤藤沢市プレスクール教室

(坂井部会長) それでは、藤沢市プレスクール教室の「藤沢市プレクラス教室」について、発表をお願いします。

(藤沢市プレスクール教室) 藤沢市プレスクール教室の白頭、市川ジョバンニ、加藤真帆子です。どうぞよろしくお願ひいたします。

本事業の目的は、外国につながる子どもとその保護者を対象に、藤沢市内の小中学校に転入する前に、プレクラス教室というものに参加していただいて、スムーズに学校生活が始めるようサポートすることです。

現在は、藤沢市内の小中学校には、外国につながる子どもが多く在籍しています。転入する子どももふえていまして、外国につながる子ども全体の正確な数字はわかりませんが、令和4年度に転入してきた子どものうち、日本語指導が必要な児童生徒は70名ほどいたということです。それまでに日本の学校に通っていなかった子どもとか、その保護者にとっては、日本の学校は本当にわからないことだらけといった状況だと思います。

現在はその説明は入学先の学校が対応しています。国際教室というのがある学校は、国際教室の担当の先生が説明していますし、国際教室がない学校については、教頭先生などが担当者となって説明しています。もし通訳が必要な場合は、学校から要請をすれば教育委員会から派遣されるんですが、その方が学校に来るまで通訳が必要かどうかもわからないので、結局通訳なしで説明せざるを得ないといった状況もあるようです。

それから、日本語の指導が必要な児童生徒がいた場合は、日本語指導員という方が教育委員会から派遣されますが、そのためには日本語力のアセスメントという手続がありまして、その手続に時間がかかって、初期段階のいろいろなサポートが遅れるということも課題となっています。

そこで、私たちは2022年9月に、プレスクールが必要だと前々から感じていたメンバーが集まりまして、藤沢市プレスクール教室という団体を立ち上げました。4月に入学する前の子どもとその保護者のためのプレスクールを開催しました。

予算は私が勤めています大学の研究助成に応募したところ、令和4年度の補助金を受けることができましたので、その資金をもとに、学校生活に必要な情報を載せたこのようなガイドブックを作成したり、当日の講師謝金ですとか、あと学生で興味を持ってい

る人に、アルバイトとして受付や保育をお願いしまして、その謝金などに充てました。

後援団体として、教育委員会にも後援名義申請をしまして、そのガイドブックのチェックをお願いしたり、市内 35 校の全小学校へのチラシの配布を依頼しました。事前に学校説明会があるので、対象となる子どもと保護者がいる場合に配布をお願いしました。みらい創造財団とか人権男女共同平和国際課にも後援名義申請をしまして、主に広報の面でご協力いただきました。

実際に何名の方にチラシが渡ったかということは把握できていないのですが、7名から申し込みがありまして、1日目、2日目と参加してくださった方はこのとおりです。出身も、いろいろなところの出身の方が集まっていただきました。

ただ、これが終わった後、4月になってからわかったことですが、令和4年度の新1年生で日本語指導が必要だと考えられたのは30名ほどいたということです。その中で問い合わせ7名、出席者6名で、ちょっと少なかったということが反省点としてあります。

また、学校の先生とか、日本語指導員の方が見学に来てくださったんですが、その方々からも、新1年生だけではなくて、2年生以上とか、年度途中で転入してくる子どもも必要だというお話ですとか、小学生だけではなくて、中学生も結構大変だというお話もありまして、そういったニーズにも応えなければと考えています。

もう一つの課題として、今回、教育委員会とはいろいろ情報共有をしながら進めたんですが、参加者が少なかったという点から、就学前の子どもへの支援という点では保育課との連携も必要でしたし、その後の継続的な支援につなげるためには、市内のボランティア日本語教室の方々との連携ももっと必要だと感じました。

そこで、今年度は、新1年生だけでなく、2年生や年度途中の転入生を対象にしたプレクラスの実施を考えています。8月と2月、同じ内容のものを2回実施予定です。夏休み明けの2学期に転入する子どもが多いことはわかっていますので、8月に行うことは効果的だと思います。本当はもっと頻繁に実施できればと思うのですが、まずは8月と2月の2回行って、内容の充実を図って、今後、徐々にふやしていけたらと思います。

こちらはプログラム案で、昨年度行ったものをもとに考えています。保護者と子どもに分かれて行いますが、保護者のほうには、各自で購入しないといけない学用品の実物を見せたり、学校の行事のこととか、休むときは連絡をしないといけないのだという最低限必要な知識とかルール、また、困ったときにはどこに問い合わせればいいのかとい

う既にあるサポートにつなげることに重きを置いています。それからあと、母語の大切さとか、子どものその後の教育を考えたお金の話などもします。

子どもに対しては、学校生活を始めるに当たり、最低限必要なルールと言葉、そして何より学校は楽しいところだよというメッセージを伝えることに重きを置いています。

また、昨年度作成したガイドブックの改定が必要です。ガイドブックは、易しい日本語と5言語（英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、ベトナム語）の翻訳版を作成しました。これは藤沢市教育委員会が、外国につながる保護者向けの文書を翻訳する際に、大体この5言語に翻訳しているということで、こちらに合わせることにいたしました。

2つ目の課題の関係各署との連携については、プレクラスの報告会を秋ごろに実施して、外国につながるのある子どもや保護者がどのようなことに困っているかを共有したり、できることなどについて意見交換をすることで、転入後の子どもや保護者へのサポートにつなげられるのではないかと考えています。

(坂井部会長) 時間になりましたので、発表を終わっていただいて、質問に移りたいと思います。委員のある委員の方はお願いします。

(関野委員) とてもわかりやすく価値があるといえますか、言われてみると、こういう活動は必要だなと思われるような申請でした。

私のほうでちょっと気になるのが、これ自体は入学や転入直前の2日間の実施ということですが、それこそ支援している市役所の課につなぐとかでもいいのですが、何かアフターケアみたいなことで、今の段階で考えられていることがあったら教えていただければと思います。

(藤沢市プレスクール教室) 現実的に今可能なのは、私たちメンバーが藤沢市日本語指導員でありまして、例えばスペイン語担当のジョバンニ先生が、通訳、翻訳、また支援もしているので、そのままつながっているという現実もございます。

それから、先ほどもお伝えしましたように、日本語教室との連携という意味で、実際にMINTOMOさんという日本語教室の方が2名ほど見学に来てくださったので、今年度は企画や実施のときにご協力いただければと考えております。

(関野委員) ちなみにMINTOMOさんだと、北部ですね。プレスクールの計画も北部中心でしたっけ。

(藤沢市プレスクール教室) 基本的に全域を対象としておりますが、やはり北部が多いの

で、去年の開催場所は北部の湘南台公民館で行いました。

(新實委員) このご活動は本当にありがとうございますと私はまず伝えたいです。本当に必要とされている活動だと思いますし、何より母語を大切にする。そして子どもだけではなくて、保護者も一緒にサポートされる。日本語のボランティア団体も各所で歴史があるのですが、目の前のお子さんだけで精一杯で、その背景まで、あるいは1人はサポートできますが、そこから横につながるといふ発想は少ないので、報告会を通じて発展していただけるというのは非常にありがたいです。

ただ、他市さんの場合は、プレスクールを、20日コース、10日コースという形でさわれていたり、希望があれば、その両方とも参加できるという市の事業をされている市もあります。未就学児とか、義務教育に慣れずに学校に行っていないお子さんとか、そうになると、保育園にもまだ行っていないお子さんなど、セーフティネットにひっかからないお子さんに対してのアプローチはどのように考えられているのかをお聞きしたいです。あと、2日間どのような内容をされるのかも、もう少し詳しく伺いたいです。

(藤沢市プレスクール教室) ありがとうございます。藤沢市教育委員会の指導課の先生よりもご存じなんじゃないかと思って、今本当に驚いたんですけども、実際、ジョバンニ先生は大和市で10日コースなどの担当をされていたので、本当によくご存じだと思います。

(藤沢市プレスクール教室) 大和市のアハペ(AJAPE)というところに昔、10年ぐらい前に参加しておりました。そちらは結構長いコースです。保護者の教室と子どもの教室があります。保護者には学校ではどんな手続が必要か。書くものから始まります。各言語の方がいらっしゃる。その翻訳も通訳も一人一人に対して、各言語のグループをつかって教えたりしていました。いろいろな方がいらっしゃって、とてもよかったです。

ただ、そちらはスペイン語関係だけだったのです。南米の中にはたくさんスペイン語が話せる国がありますが、南米だけが対象でした。もちろん、ポルトガル語とか、スペイン語に近い言葉などは、言葉が似ているので、何とかサポートできるということでした。でも、藤沢市には、こういうグループはありません。

子どもたちに対しては、授業は、どのような形で授業をするのか。例えば朝始まるときは、みんな座って静かにして始まりますとか、朝の話とか、その準備とか、本当にゼロからで全くわかりません。日本語がわからないお子さんもたくさんいらっしゃいます。とても大変です。でも、それにみんな参加している。

その後の結果は、学校から「とてもよかったです」と連絡が来ています。何とかついていっているお子さんもたくさんいらっしゃるし、お母さん方も日本語で学校に連絡も来ているんですとか、休むときにも連絡してきているんですという実際の学校からのアンケートとか報告がたくさんありました。

(藤沢市プレスクール教室) そういうわけで、2日では足りないということは重々わかっているんですけれども、これからの課題として3年、10年先は本当に考えたいと思っております。

(藤沢市プレスクール教室) あと、私たちも限られた予算の中でやっていますので、2日間にせざるを得ないんですが、今後は藤沢市のほうにも働きかけて、市としても積極的にかかわっていただけたらな、何か土台をつくってそれを続けていただけたらというような気持ちでやっています。

(坂井部会長) 2点だけ聞きます。短いお答えで結構です。

今のお答えにも関係するのかもしれませんが、今回の助成金で20万円申請されていますが、そのうち15万円が通訳さんの経費です。補助金がなくなった後、どう継続されるお考えかというのが1つです。

それから、この事業をやった効果というか、そこを評価する取り組みを何か考えていらっしゃるかどうか、その2点を伺います。

(藤沢市プレスクール教室) まず、効果からですが、今回は行った先の小学校からの聞き取り調査などをあまりしなかったことが反省点としてあります。今後は、このプレクラスに参加した後に、実際に子どもたちとか保護者が困ることが少なくなっているかということも調査したり、そういうフィードバックを市のほうにもしていきたいと思います。

予算も、昨年度行って、一番費用がかかるのがやはり通訳の方への謝金でした。今後はほかの補助金などの申請も視野には入れていますし、市の中の通訳派遣予算を使えるような形で提案していけたらと思っています。

(藤沢市プレスクール教室) 実際の効果ですが、私は今、善行小学校の日本語指導員でスペイン語を担当しています。そこに入学するお子さんがプレクラスに参加しました。

お母さんは、私たちが翻訳したものを見ながら、プールではどんなものが必要かとか、お子さんが学校を休むときに、どういう形で学校に連絡すればいいのか、このガイドブックを使って学校に連絡しました。

そこで、校長先生から、「これ、すごくいいですね。コピーさせてください」と言わ

れました。それから、ほかの外国につながるのある児童、ペルーだけではなく、例えばアルゼンチンとか、メキシコとか、いろいろなお子様がいらっしゃるの、そちらにも大きくプリントして配るようになりました。こういうところで、やはりすごくよかったです。

お子様にも、朝の会の説明とか、日本語がほとんどわからないけれども、例えば挨拶とか、「おはようございます」とか、給食のときの「いただきます」とか、授業のときの「始まります」とか、「終わります」とか、本当に簡単な言葉から始まって学んでもらい、こういう形でとても成功したということです。

(藤沢市プレスクール教室) 通訳に関しては私たちもちょっと考えまして、この図にありますように、各学校に一人一人が通訳に行っていて、同じスペイン語の先生でも違う学校に行ったら、その分お金がかかっていたのですけれども、こうやって集めれば、その分減りますよということを教育委員会にも提案して、お互いウィンウィンという形で交渉というか、提案をしていきたいなとも考えております。

(坂井部会長) それでは、時間になりましたので、以上で終了といたします。

藤沢市プレスクール教室の皆さん、どうもありがとうございました。お疲れさまでした。(拍手)

それでは、団体の入れかえをお願いします。

(団体入れ替え)

⑥あさがおプロジェクト

(坂井部会長) それでは、あさがおプロジェクトの「東京 2020 オリンピックレガシー継承事業」について、発表をお願いします。

(あさがおプロジェクト) 皆さん、こんにちは。あさがおプロジェクトです。

委員長をしております齋藤泰子と申します。私は藤沢に途中から住み始めたんですけども、人脈ほぼゼロ、そんな中で人とつながっていきたいということがきっかけでボランティアを始めました。本日はどうぞよろしく願いいたします。

(あさがおプロジェクト) 副委員長の村山祐子と申します。私はシティキャストに応募してフラワーレーンプロジェクトに参加しました。その後、あさがおを継続して残していくことで、子どもたちに未来、希望を届けるということで、企画に賛同してあさがおプロジェクトに参加しています。

(あさがおプロジェクト) 事務局長をしております宮崎名津子です。私は藤沢に転入して

きて約8年になりますけれども、地域の方とつながれるようなボランティアがたくて、オリンピックのシティキャストに応募いたしました。本日はよろしく願いいたします。(あさがおプロジェクト) あさがおプロジェクトをご紹介するに当たって、エピローグとして、フラワーレーンプロジェクトについてお話をしたいと思います。

フラワーレーンプロジェクトというのは環境に優しい取り組みでした。江の島の弁天橋では神奈川県版フラワーレーンプロジェクトが展開されておりまして、私どもシティキャストフジサワ有志の自主活動としてお世話をさせていただいたということがありました。ここで無観客のオリンピックで選手を応援するということがありました。

そしてフラワーレーンプロジェクトのお世話というのがあさがおプロジェクトの前身になるわけですが、あさがおプロジェクトとは何ぞや。簡単に言うと、オリンピックのレガシーを継承して後世に残すという活動をしております。

では、レガシーとは何だろうというところで、フラワーレーンそのものです。無観客開催で選手を応援したあさがおのおもてなしを後世に残していきたいという活動をしております。

(あさがおプロジェクト) それでは、今まで私たちが何をしてきたかというところをご紹介させていただきます。

大きく分けてこの5つになります。

こちらは活動の写真です。真ん中辺にあるのは、昨年度、広島ハンザクラスワールドで、私たちがつくったあさがおの押し花カードを選手の皆さんにお配りさせていただいたときの写真です。

こちらは実績の詳細になります。このような活動を通じて、昨年9月にあさがおプロジェクトという任意団体を立ち上げました。また、市民活動推進センターへの登録をして、そちらを拠点に活動しております。

転機となったメッセージです。橋本聖子さんからいただきました。このメッセージがきっかけとなりまして、チームFUJISAWA2020のフォーラムに参加させていただいたり、チームFUJISAWA2020のサイトを利用しまして、あさがおの種の配布会の募集活動などもさせていただくことになりました。

今年度4月から6月まで何をやってきたかというところをご紹介させていただきます。先ほどのチームFUJISAWA2020を使いまして募集をして、説明会及び種の配布会をしております。今まで種を配布した方を、サポーターという名前にしておりますが、「個

人サポーター78名」と書いてありますけれども、今現在 106 人まで増加しております。

また、種は400パック配布しました。1パックに15から20粒ぐらい入っています。また、苗の配布もしております。「約 300 ポット」と書いてありますけれども、ちょうど先日かながわセーリング祭に参加させていただいて、200 ポット配布させていただいたので、合計で500ポットの配布になります。

この活動を通じまして、いろいろな方にご協力をいただいております。地元の団体を初めとして、行政の皆様、特に公民館にチラシを置かせていただいたり、公民館の子ども事業の活動に参加させていただいたりということもございました。

知名度を上げるための工夫として、SNSやこういったポロシャツなどもつくっております。(現物掲示)

今年度、8月から何をしていくかというところです。今現在私たちは種と苗の配布を全て終えたところですので、これから花が咲いて、花を取って押し花にして、押し花カードをつくるといったワークショップを、子ども向けだったり、大人向けだったりで活動をしていきます。また、公民館の子ども事業においても、同じような活動をさせていただいております。

また、それぞれのワークショップの中で、タイムカプセル郵便といって、子どもさんを中心に、次のオリンピックイヤー、未来のオリンピックイヤーに、自分へのメッセージを届けるというお手紙を書いてもらう。それが届いたときに、その手紙の背景となったあさがおのおもてなしを思い出してもらおうというふうに活動をしていきたいと思っています。

押し花カードは、押し花だけではありません。押し花カードの下には、選手への応援のメッセージを書いていただこうと思います。こちらをマルセイユに届けるというのが私たちのプロジェクトです。

(あさがおプロジェクト) ここから未来のお話になります。

ミライカナエル1年目。来年はパリでオリンピックの大会があります。私たちにとって勝負の1年です。ここで実績をつくります。セーリング連盟様に私たちの成果である種や押し花カードを納入して、フランス国内であさがおのおもてなしを知っていただきます。

2年目から3年目。残念ながらオリンピックの熱には波があるかなと思います。終わってしまうと、皆さん忘れてしまったりということがあるのではないのでしょうか。その

ときに私たちは、サポーター間で緩やかに交流を試みたり、あさがおの種を維持し、継続していく。そしてセーリング連盟さんとは、ボランティアをしたり、セーリングを応援したり、そんなおつき合いを深めていく2年目、3年目にしたいと考えております。

もう一つ、実は4年目が大事なんです。何があるかという、次はロサンゼルス・オリンピックです。そのために、私たちは再始動します。継続をしていきます。

私たちのあさがおプロジェクト的ミライカナエルですが、実際に私が強引に誘ったメンバーなんですけれども、どんなことが起きたかということをお話しいただいて、ミライカナエルを想像していただきたいと思います。お願いします。

(あさがおプロジェクト) 私は平塚市在住で活動に参加しています。藤沢には年1回ぐらいしか来なかったんですが、この活動を通して頻繁に訪れるようになり、地域の方との交流ですとか、ボランティアに参加するきっかけをいただいて、この藤沢市が好きになりました。こういった活動を続けることによって、地域への愛情とか誇りの醸成につながっていくと私は感じております。(拍手)

(坂井部会長) 時間になりましたので、ここで発表を終わってください。

では、これから質問をさせていただきます。質問のある委員の方はお願いします。

(森田委員) 短い中にコンパクトにお話しいただき、ありがとうございました。

質問にもあったのですが、レガシーの捉え方というところで、フラワーレーンそのものだったんですけれども、もう少し具体的に教えていただきたい。

それと、形を変えて、皆さんがキャストとして参加されたその思いを伝えたいというところがあるのか、それとも、形としてのフラワーレーンなのか、それは今後どうなっていくのかというのが、もう少し具体的にわかるとありがたいなと思っています。

(あさがおプロジェクト) フラワーレーンそのものがレガシーということなんです。まず、無観客でオリンピックを開催したことが前代未聞だったと思うのです。それは日本人にとってすごく誇らしい。オリンピックでいろいろとネガティブなことも言われましたが、ものすごく誇れる材料だったと思うのです。

その中で、選手が疲れてバスの中で寝て帰ってきた。そういう現状の中で、弁天橋から手を振ってもらって、すごく癒されたという声がありました。実は選手村にもパネルを置かせていただいて、子どもたちの思いというのを届けております。

無観客の中でも選手を応援することができた、それがフラワーレーンだったと考えております。無観客でも選手を応援するツールがあったということがレガシーになると考

えています。

最後のページで言いたかったのですが、思いを伝えたいです。このあさがおは特別だと思うのです。江の島弁天橋でオリンピックに参加したあさがおです。

なかなかオリンピックに参加し切れなかった方も多かったのではないかと思います。シティキャストの皆さんの中にも、何もできなかったという方がいらっしゃいました。でも、私たちがこうやってあさがおプロジェクトを継続することで、後継でオリンピックに参加し続けることができるよという思いがあります。

そして、あさがおの「感謝とエールの象徴」というのを広げていきたいと考えました。「夢をかなエールカード」、「逆境をのりこエールカード」、「感謝をつたエールカード」ということでギャグになっているのですけれども、こんなネーミングをつけまして、4年に1回、オリンピックという大きな機会を通じて振り返りができることが、人の成長に役立つのではないかと考えています。それもレガシーにつながっていくと考えております。

(森田委員) その辺がわかりやすく伝わるとういかなと思いました。

(新賞委員) いろんな新しいボランティアを通じて、しかも、オリンピックという大きなイベントを通じて、人との交流が広げられたという積極性に対して、本当に素晴らしいなと思ってお聞きしました。

すみませんが、私はよくわかっていないのですけれども、検疫を受けて種を送られて、そしてフランスで選手の皆さんに種をお渡しした場合、その選手の人たちはまた自分の国へ入るときに、種の検疫は必要ではないのでしょうか。そここのところを教えていただきたいです。

(あさがおプロジェクト) よく聞かれる質問であります。まず、私たちはその問題をクリアするために、種と一緒に押し花カードをお土産で持っていきます。区分けがありまして、残念ながら、種はフランスで再度検疫を受ける必要がございますので、この種はフランス国内で楽しんでいただこうと考えております。選手には押し花のエールカードをお土産として持って行っていただこうと考えております。

(山岡委員長) 活動の中で、押し花ワークショップというのを繰り返しやっておられると思うんですが、押し花も、先ほどのラミネートとか、台紙とか、材料費がかかるかなと思います。その材料費くらいは、参加者負担として参加していただいた方からいただくと、費用の部分もそれなりにうまくいくと思うのですが、そういうお考えはないですか。

(あさがおプロジェクト) 当初300円程度いただいてやっていこうと思ったんですが、私たちは、未来の大人になる子どもたちに1人でも多く活動していただきたいなと思いました。子どもにとって300円は結構大金なので、そこを私たちが支援できたら、もっとたくさんの子どもたちが参加できるのではないかと考えました。

(山岡委員長) そうであれば、例えば大人1000円、子ども無料という形も考えられないでしょうか。

(あさがおプロジェクト) いいと思います。ただ、大人もなかなかシビアですので、このカードに1000円払ってくれるかという、なかなか難しいんですね。ただだから参加するという人は多い。そういう意味では、最初の活動は実績を広げることになりますので、お金は極力私たちが負担するほうが、たくさんの方が参加してくれる。やってみると、楽しいので、1回1000円のお金を出してくださる可能性は出てくると思います。

(山岡委員長) どうしてこのような質問をしたかといいますと、自分たちで負担されるという心意気はいいと思うんですけども、やはり続けていくということを考えると、いつまでも負担し続けることはできないので、皆さん自身が大変になっていくのではないかという気がしたのです。

(あさがおプロジェクト) ありがとうございます。そういったところでも、私たちは本当に自主活動1年生なので、実績がほぼないのです。ただ、期待はすごくしていただいているという声は聞いておりますので、パリのオリンピックで実績ができれば、企業への協賛とかそういった展開は期待できると考えております。

(坂井部会長) 感想だけ申し上げます。ワークショップでそういう押し花をつくるのは非常に楽しいことだと思います。今見せていただいたのは、花だけが入っていたように私には見えただけですけども、例えばそこにお子さんであれば、夢とか、親へのお礼とか、何かそういうのをちょこっと入れたら、おもしろいことになるんじゃないかなと思います。

(あさがおプロジェクト) そうなんです。去年はこのあさがおのカードを使って広報していたのです。あさがおを知ってくださいと。ことしはエールカードに変身しました。実は第1号は藤沢の鈴木市長に書いていただいたんですが、裏にメッセージを書いてお届けいたします。

(坂井部会長) 頑張ってくださいと思います。

では、時間になりましたので、以上で終了といたします。

あさがおプロジェクトの皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。(拍手)

以上でスタート支援コースの発表は終了となります。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

(坂井部会長) ここで一旦休憩といたします。休憩に入る前に、事務局から事務連絡をお願いします。

○事務局から休憩と再開時間について連絡がされた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

午後3時00分 休憩

午後3時10分 再開

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

ステップアップ支援コース

①湘南市民ワークショップ

(坂井部会長) 時間になりましたので、プレゼンテーションを再開します。

ここからはステップアップ支援コースの発表となります。

湘南市民ワークショップの「湘南に響く被爆ピアノ～平和イベントとWS」について、発表をお願いします。

(湘南市民ワークショップ) 湘南市民ワークショップ代表の清水です。よろしくお願いいたします。

私たちは市民講師に登録しているメンバーが多く、自分の経験や知識を地域で役立てたいと活動しており、講師同士がコラボをしたり、ワークショップイベントを開催しています。

例えば去年は市役所のトライアル・サウンディングにチャレンジしました。コロナ禍で何年も夏祭りや盆踊り大会が中止となっていた時期ですから、ふじさわ夏まつりというタイトルにして、誰もが楽しめるイベントを目指しました。うれしいことにこの盆踊

りワークショップは、年配の方からお子さんまで楽しく踊っていただきました。

また、オリジナルのクラゲをつくる工作はお子様たちに大人気でした。ほかに読み聞かせ、フラフープ、サンバ打楽器、ダンスなどが体験できるイベントで、J:COMのテレビの取材も入りました。また、屋上庭園ではこのように「浜辺の歌サンバ」のプロモーションビデオを撮影しました。

「浜辺の歌サンバ」というのは、もともとは2020年の東京オリパラ市民応援団藤沢ビッグウェーブのアイデアソンとして採択されまして、辻堂海岸のイメージで歌詞が書かれた「浜辺の歌」を、楽しいサンバにアレンジし、湘南の魅力を伝えるプロモーションビデオを2020人で撮影しようという企画でした。

このメンバーであるアーティスティックスイミングのコーチの宮崎さんは、オリンピックの選手も育てていらっしゃいますが、こうやって「なんちゃってシンクロ」のチームをつくっています。また、隣の川越さんは、フープ東京の認定インストラクターでフラフープをされる。そして、私は歌や音楽、演奏を担当する。それぞれの得意分野を生かしたコラボとして制作したパフォーマンスなので、参加者さんも、それぞれ自分が得意だったり、好きなジャンルを選べるので自分の居場所を見つけられますし、障がいの有無を超えて、お子さんから年配の方までご参加いただけるプロジェクトになりました。

しかし、コロナで活動ができなくなり、海岸で大勢集まってドローン撮影をするのも、日程まで決まっていたのに中止する羽目になってしまいました。

それでもこの企画を楽しみにしてくれている皆様の期待に応えたいと、オンラインで継続することを決意し、2020年度のみライカナエルのサポートをいただきながら、Zoomワークショップやライブ配信のシステムを構築しました。

やってみると、オンラインは利点も多く、例えば東日本大震災以来、続けてきた被災地との交流コンサートも、コロナで中止していたのをZoomで再開できましたし、私たちが立ち入れなくなってしまった障がい者施設の皆さんもZoomでこのように練習に参加していただけるようになりました。

そして、被災地との交流コンサートについては、読売新聞でも大きく取り上げていただき、リアルで80人以上が参加、Zoomでも20人ぐらいが参加したという大盛況のコンサートとなりました。

プロモーションビデオの撮影も、宮崎コーチの「なんちゃってシンクロ」はこんなに盛り上がりました。海岸での撮影は、コロナの制約で、定員をごく少人数にしたのです

けれども、江の島をバックにドローンで撮影して、「本当に楽しかった」、「またやりたい」と皆様から言っていたいており、当団体の YouTube チャンネルで公開中です。オリパラ後もレガシーとして続けておりまして、福島との交流も続けておりますし、ビッグウェーブのアーカイブでも大きく取り上げていただき、とても貴重な経験を積むことができました。

これらの成果を踏まえて、今年度は湘南に響く被爆ピアノ、平和イベントとワークショップというプロジェクトに取り組み、インクルーシブな活動をさらに推し進めます。今ある戦争からいじめ、自殺問題まで、全て差別意識がもとになっていると考えています。差別をなくすには、幼少からの教育環境が重要です。学校では、残念なことにインクルーシブ教育がまだ実現できていませんけれども、私たちが音楽やアートを通して、年齢や障がいの有無、LGBTQも超えて、一緒に協働作業ができる環境や機会をつくりたいと考えています。

私自身は10年ほど前から、このように障がい者施設でも100人ぐらいの皆さんとか、障がいの重い方たちの前でコンサートをしたり、老人施設、学校の支援学級から依頼を受けてコンサートやワークショップをしてきました。

4月には地元のビッグパレードに出演しました。「浜辺の歌サンバ」で出たのですが、幼稚園生から80代の方まで、さらに10人以上の知的障がい者の方も一緒に、40人以上の方が笑顔で踊ってくださいました。周囲の方からはまさに多様性を体現していたと高い評価をいただき、養護学校の先生や保護者の皆様も支持して下さり、今回のプロジェクトとは別ですが、1年がかりのコラボも予定しています。

また去年は、ウクライナの侵攻で世界情勢が一変したとき、私は本業がピアニストなので、平和をテーマにピアノコンサートを開催することを決意し、ウクライナの作曲家を取り上げて、募金活動も行いました。また、湘南在住のウクライナ難民の皆様をご招待し、とても喜んでいただきました。新聞にもこのように掲載されました。

ウクライナと日本は、原発事故という共通点がありますので、反戦、反核の思いも発信したいと考え、昨年、原爆をテーマにした戯曲「島」をもとに、音楽劇を創作、演出しました。友人である全盲のピアニストと茅ヶ崎で共演したんですけれども、お客様からは、「感動しました」、「もっと多くの人に聞いてほしい」など、うれしい感想をいただきました。横浜、神戸でもツアーをしまして、私たちは、いつか広島でも公演したいとか、被爆ピアノでも演奏したいという思いが膨らんできました。

被爆ピアノについては、私がピアニストとして依頼されたおかげで、2018年にホールや商業施設で何度か演奏しています。爆風の傷跡が生々しいピアノなんですけど、弾いてみると、温かくも豊かな音色が出て本当に魅了されました。

また、今回5年ぶりに被爆ピアノを祈りを込めて演奏したい。一般の方々にも弾いてもらって、今こそ平和について考える機会をつくりたいと考えまして、被爆ピアノの所有者である矢川氏に会いに、ことし1月、広島市の被爆ピアノ資料館に行きました。5年ぶりの再会でしたが、ご快諾くださいました。

また、こちらに私が持っているのですけれども、被爆ピアノを書いた絵本というのがありまして、矢川さんがこちらを私に朗読してほしいとおっしゃっていました。今その絵本を、知的障がいのある方々とも稽古を重ねながら、新たにインクルーシブな音楽劇として制作しているところです。

被爆ピアノは広島や長崎に何台か現存しますが、演奏できる状態のものは、矢川さんが所有する4台だけです。しかも、矢川さんもお高齢になり、4トントラックで全国に運搬することが難しくなるからと、2年前に被爆ピアノ資料館をご自宅に建てられました。なので、今はそこを修学旅行生も訪れて、矢川さんも被爆ピアノもスケジュールが先々まで埋まっています。

それがこの2、3日で決まったんですけれども、ピンポイントで空きが出たと矢川さんから連絡が来て、11月に1週間ほど湘南に来てくださることが決まりました。今しかチャンスがありません。ぜひ次世代を担う子どもたちに被爆ピアノ体験してほしい。そして先ほどの絵本の朗読も、子ども向けにワークショップを開催して、被爆ピアノとともに発表したいと考えています。

私は2016年、音楽団体の代表としてホノルルに文化交流視察に行きました。平和記念公園にある「原爆の子の像」のモデルとなった禎子さんは、白血病に苦しみながら病室で折り鶴を折り続けましたが、その折り鶴が、日本が攻撃した場所であるパールハーバーに展示されているということが、私にとって驚きであり、まさに奇跡的だと思いました。このパールハーバーで折り鶴の展示を実現させた立役者の1人であるピーターソン・ひろみさんという方とお会いでき、私のラジオ番組でも取材させていただいたのですが、彼女が来場者に禎子の……。

(坂井部会長) すみません、恐縮ですが、発表途中でも時間になりましたので、発表はここで終了とさせていただきます。

(湘南市民ワークショップ) この平和を実現するためによろしくをお願いします。

(坂井部会長) それでは、委員のほうから質問がありましたらお願いします。

(関野委員) 全体の中でちょっと気になったのが、市民の中に広くということ为先ほど発表の中でもおっしゃっていたんですけれども、予算上、チラシを制作されるということですが、広報に関する計画みたいなものが申請書からも見えてこないの、どういう形でご参加の人を広く集めるようにしていくのか、そこら辺をどうお考えであるか、お聞かせください。

(湘南市民ワークショップ) 私たちはいつも広報費にあまりお金をかけたことがなくて、やはりチラシ、それからミライカナルで助成していただけると、広報にも載せていただけるので、そういったものでいつも集客しています。

先ほども言いましたが、今まで社会的に、震災地との交流だと、藤沢の広報に載った記事を見て、読売新聞が取材に入ってくださったり、ウクライナの方を招待したという、神奈川新聞が来てくださるなど、メディアリリースをしっかりとすれば、必ず取材に来てくださる。「タウンニュース」とかも、もちろん地元のものもすごくたくさん載せてくださいましたし、そういったものを活用したいと思っています。

35万円のピアノのレンタルですが、やはり予算としては、ここは正規の料金しかアップしていけないと思って35万円で載せましたけれども、いろいろな団体が助け合えばそれができる。つまり、その35万円は、矢川さんが広島から4トントラックで来る高速代、ガソリン代がかかるわけです。調理も、運搬の人件費もかかります。そういったものにどうしてもかかってしまうわけです。

なぜこの日にピンポイントで来たかということ、そこなら湘南でできそう。本当は1月と3月だったのですけれども、少し前倒して、今のところの予定表では、11月に1週間ほど、3団体がかかわれるということが決まっているので、費用がかかるのは3分の1まではとにかくいけそう。なので、その分、広報に回したりなども私たちも考えたいです。でも、やはりメディアリリースをしっかりとすればできる。

私は前にも被爆ピアノを別の地域で弾いていますけれども、本当に取材が入ります。私のピアノの教え子の通っていた中学校に被爆ピアノが来たら、NHKの取材が入っていました。被爆ピアノというのはやはりすごく注目を浴びています。矢川さんがご高齢ということで、遠方に来られるのも本当に貴重で今しかないなと思っていますので、ぜひそういうふうに広報していきたいと考えています。

(関野委員) どちらかという、プレスリリースの出し方ですけれども、当日に取材が来ても、当日のお客さんは集められないので、事前広報という形で検討していただくとありがたいです。

(湘南市民ワークショップ) それはもちろんです。読売新聞も事前広報として載せていただきました。

(坂井部会長) 被爆ピアノを使った取り組みなんですけど、これは来年度以降もやっていくんでしょうか。

(湘南市民ワークショップ) 今申し上げたように、矢川さんがご高齢で、あまり遠くに行けないから、ご自宅に被爆ピアノ資料館を建てて、行く行くはみんな広島に集まるという形にされたいということなので、そんなに何回も呼ぶというようなものではないと考えています。

ただ、私も5年前に大磯で拝見したのですが、ほぼ100年前につくられたピアノで、今はない象牙が使われた鍵盤とか、当時は家1軒分の値段だったという高級なピアノを、生々しい傷跡をわざと残して修理をされているので、これが湘南で見られるというチャンスはめったに来ないのではないかと思います。絶対に心に残るし、これで平和を考えたら、みんなすごく自分事になると思うんですね。

11月に湘南に来た後、12月には逆に私が広島の資料館で、そこにある唯一のグランドピアノの被爆ピアノでコンサートをさせていただくことになっています。ここでやった場合は、子どもたちが折り鶴にメッセージを書くとか、手紙を書いてもらって、直接広島に届ける。今また別の助成金も申請中なんですけど、もし広島でもワークショップができれば、湘南のみんなからこういうものを持ってきたんだとあって、逆にメッセージを返してもらおうとか、そういった交流にもつながったらいいなと思っています。それを今後、来年以降にもつなげていけたらと。被爆ピアノの存在は本当に貴重なので、これを本当にみんなの心に残してほしいと思っています。

(山岡委員長) ワークショップのことについて確認ですが、資料だと、「子供を中心としたワークショップと、年齢不問・障害の有無を超えたワークショップ」とあるので、2種類のワークショップをやるという理解でいいですかというのが1つです。

あと、人数のところですが、500円×20人×7カ月という収入が書いてあるので、ここのワークショップに参加する人は合計で20人ということでもいいですか。また、その20人をどういうふう募集されるのか。もし20人を超える応募があった場合には選

抜をされるのですか。

この3点を教えていただけますか。

(湘南市民ワークショップ) 既に今 20 人近くの方たちがインクルーシブなワークショップをやっています。半分ぐらいの割合で障がいのある方もいらっしゃるんですけども、内容によっては朗読が難しいとかありますので、分けてやるときもあります。でも、身体表現とかはできるだけ一緒にやっています。

先ほどこの3人でつくった「浜辺の歌サンバ」の話題を出しましたがけれども、これが障がい者施設とかに行くときに本当にすごくいい。楽器の知識がなくても、打楽器でノリノリになれたり、踊れたり、歌えたりする。障がいのある方もできるし、本格的にサンバを習いたいという方も、ちゃんと打楽器の先生がいらっしゃるの、習うこともできるのです。うまく使い分けながらやっていきたいですし、人数がふえる分には、私自身は幾らでも受け入れたいと思っています。

(山岡委員長) 「子供向け」と、「年齢不問・障がいの有無を超えたワークショップ」、2種類のワークショップをやるという理解は合っていますか。それとも1種類のワークショップの中で一緒にやっているのか。

(湘南市民ワークショップ) 今も分けているけれども、時間帯で分けたり、一緒に合同でもやっています。内容によって、先ほど言った「島」をやるのは、朗読がかなり難しいので、それは健常者だけになるかもしれません。

(山岡委員長) 一緒にやることもあるし、別々にやることもあるということですね。

(湘南市民ワークショップ) そうです。今のところは、こういうシーンで知的障がいの方が登場するとか、ここの合唱は一緒に歌おうとか、そういうふうに考えて、合流で発表したいと思っています。

(山岡委員長) あと、今メンバーが既に 20 人おられるということですが、新規の募集もされるということですか。

(湘南市民ワークショップ) もちろんそうです。

(山岡委員長) 選抜はされず、応募があれば受け入れるという形。

(湘南市民ワークショップ) そうです。

(森田委員) 支出のところの確認ですが、YouTube 配信と撮影とありますけれども、これはピアノのコンサート自身を YouTube で配信して、スポットだけではなくて、もっと広く伝えるということで予定されていますか。

(湘南市民ワークショップ) そうです。私は本業がピアニストなので、Zoom だけでなく、高音質・高画質で有料の配信というのも、こちらのミライカナエルの助成のおかげで購入することができますので、そういったこともチャレンジしたいなと思っています。

実際に8月に、途中経過ですけれども、無料のコンサートとしてみんなで発表してみ、10月に私のソロコンサートがあるので、これは有料のコンサートなんですが、そこでできれば障がいのある方と即興セッションをやりたいなと、コンサートのプロデューサーと話しています。

(森田委員) 私が伺ったのは、被爆ピアノのコンサートのYouTube配信。

(湘南市民ワークショップ) もちろんそうです。被爆ピアノです。

(森田委員) それを子どもたちとコラボでやりましょうということなんですね。

(湘南市民ワークショップ) そうです。被爆ピアノのコンサートです。先ほどの全盲のピアニストと共演するほうはかなり難しい。原爆被爆者の差別とか、結婚のときに差別があったり、そういう苦しみ、悲しみを描いた劇なんです。これは難しいので、小学校高学年ぐらいからしか見られないと思うんですけども、その前段階として、矢川さんからご紹介された被爆ピアノ自体を説明するなど、子どもにもすごくわかりやすいので、これは知的障がいのある方と一緒にダンスや歌を交えながら、今、劇にしています。この2本立てで、ぜひ被爆ピアノそのものと、原爆による苦しみ、差別、恐ろしさ、そして平和の大切さを伝えたいと考えています。

(森田委員) そうすると、事後的な波及性みたいなものもそこで担保されるということですね。

(湘南市民ワークショップ) そうですね。そうやってライブ配信といいながらも、録画もしておきますので、後々また見逃し配信みたいなこともできると思いますし、貴重な被爆ピアノの音色をぜひとっておきたいなと思っております。

(坂井部会長) それでは、時間になりましたので、以上で終了とします。

湘南市民ワークショップの皆さん、ありがとうございました。お疲れさまでした。

(拍手)

では、団体の入れかえをお願いします。

(団体入れ替え)

②特定非営利活動法人 湘南マンション管理組合ネットワーク

(坂井部会長) それでは、特定非営利活動法人湘南マンション管理組合ネットワークの

「マンション運営管理のサポート強化」について、発表をお願いします。

(特定非営利活動法人 湘南マンション管理組合ネットワーク) 皆さん、こんにちは。湘南マンション管理組合ネットワークの会長をしています藤木でございます。よろしくお願いいたします。

隣が大内理事、その隣が松川理事でございます。

当会はマンションの管理組合の皆さんの団体です。管理組合の皆さんの相談事であるとか、情報共有を通して、管理の適正化を図っていこうということを支援していく団体でございます。

きょうのプレゼンにつきましては、実際にこの書類を作成されました大内理事から説明させていただきます。

(特定非営利活動法人 湘南マンション管理組合ネットワーク) まず、今回の目的からご説明させていただこうと思います。今回の目的は、ずばり分譲マンションのスラム化防止、こちらに柱を置いております。なぜ分譲マンションがスラム化してしまうかということですが、管理組合の運営がうまくいっていないことが一番の原因になっております。

現状からご説明させていただきたいと思うのですが、藤沢市には、現在約800棟のマンションがございます。藤沢市は古くから風光明媚で、都心へのアクセスも非常によかったために、50年ぐらい前から分譲マンションが多く建ち始めました。皆さん非常に憧れの地として、居住を求めてこちらのほうに移住されてきました。

当時は非常に斬新な建物であったんですけども、分譲マンションをみんなで維持していくことに関して、経験や知識を持っていらっしゃる方が非常に少なかったということです。時を経まして、50年たつと、当然建物は高経年化し、住んでいらっしゃる方は高齢化してしまいます。

これが悪いというわけでは決してございません。逆に言うと、年をとってもここに住み続けたい。長くそのマンションに住み続けたいという意識のあらわれで、これは決して悪いこととは思っていません。ただし、どうしてもマンションが高経年化してくると、ひいてはスラム化につながるようになります。

マンションですが、外から見ていると、「まだ大丈夫。えっ、何でこのマンションが？」と思うものがいっぱいあるんですが、中に入ってみると漏水が多発していたり、理事の皆様の高齢化で管理運営がうまくいっていない、理事のなり手がいない。自治会などでもそういった話をよく聞くんですが、どうしても高齢化してしまいますと、理事

のなり手がなくなってしまうと、ひいてはマンションが長持ちしないし、衰退化につながるという問題が、このところ喫緊の課題として発生しています。

ご質問の中にもあったんですけれども、当団体以外に、行政などでも同じ活動とか相談などを行っているんじゃないかということです。当然藤沢市さんとか神奈川県などでも、マンションの相談会とか、アドバイザー派遣というものは行っております。ただし、やはり相談にとどまってしまうと、管理組合の運営を改善していくところまではなかなかつながっていません。我々はもうちょっと中に入りまして、管理組合の運営の改善というところまで努めていきたいと思っています。

ひいてはマンションがスラム化してしまいますと、どうしても地域に与える影響がよくないことがわかっています。当団体は、活動歴は結構長いのですが、1つ言えることは、我々の活動がなかなか周知されていないことが、1つの課題となっています。やはり高齢化という問題がございますので、インターネットやホームページ、あとはSNSなどもございますが、どうしても紙媒体で知っていただくことが必要になってきております。

こちらのスライドですが、今お話しさせていただいたものが数値化されています。藤沢市では約2割の方が分譲マンションにお住まいという形になっています。

こちらのスライドは、かなりショッキングなスライドのように見えます。実は滋賀県の野洲市に実際あった話なんですけれども、分譲マンションの管理がうまくいかなくなってしまいまして、ほとんど崩れ落ちる寸前になってしまいました。こういうことが実際に起こっております。

ちょっと考えていただきたいんですが、皆さんのお住まいの地域にこういった建物が1棟あるだけで、どう考えても防犯面とか環境面でいい影響を及ぼさないと。こうならないように、いち早く我々で対応したいというところがそもそもの目的です。

先ほどからお話もさせていただいているんですが、役員の担い手不足ということで、居住者が高齢化してしまいますと、どうしても管理組合の運営が滞って、ひいては管理不全になるおそれがあります。

それから、マンションの多くは管理会社が入っているんじゃないかというご質問もいただいております。今、藤沢市では、約1割のマンションが自主管理になっています。90%は管理会社が入っているんですけれども、管理会社は営利会社なので、やはり人件費の高騰などで値上げを向こうから言ってくることもあるのですが、そうしたときに、

管理組合ではその値上げに応じることができなくて、管理会社のほうから撤退してしまっているという現状が今現実にございます。

こちらのページですが、昨年マンション管理適正化認定制度ということで、国のほうからもこういった認定制度が発表されております。この中でもNPOの活動の存在意義とか、これから期待されているというような形になっています。

(坂井部会長) では、時間なので、ここで発表を終了してください。

質問のある委員の方はお願いします。

(入内島委員) 行政だと、相談までになってしまって、その先がないということでした。団体では、中にまで入ってアドバイザーをされる。

ただ、実際、建物の老朽化とか、漏水などがあつたら、工事をしなければいけない段階になると思うんですが、そういった橋渡しは、営利目的になってしまうと思うのです。工事をするという事は、やはりそこに工事費用がかかるので、営利な部分がかかってくると思うのですけれども、その橋渡しもされるのか。

実際、管理会社が入っていないと、それすらもできずに、ただ放置されていることが多い。管理費もある程度は徴収している。ただ、管理費を払わない人がいるとか、そういったトラブルもよく聞くのですけれども、そのアドバイスというか、実務もやっていかれるのか。いろいろふえていくと結構大変だと思うのですけれども、その辺の体制とか、実際の工事の発注の部分とか、そういったものはどういった形でやっていращやるのかという質問です。

(特定非営利活動法人 湘南マンション管理組合ネットワーク) マンションの相談事というのは、市でも我々もやっているのですけれども、その先をどうするかとなると、マンションの中に理事として入っていくとか、顧問として入っていくとか、マンションの理事会と一緒に解決していくというようなことを今やっています。

マンションの中には、管理に無関心な人とか、反対であるとかいう人も結構いるのですけれども、そういう人たちに地道に広報しながら継続してアピールしていくことによって、その気になっていただくというようなことをやっていきます。最終的には、さっきの未納であるとか、大規模修繕をやらないとか、長期修繕計画をやらないとか、そういうマンションに対して、やっていきましょうという力を少し与えさせていただくというようなことを今やっております。

(入内島委員) 工事を発注する以前の段階、まずは管理運営のところをしっかりとサポート

する団体というイメージでよろしいですかね。

(特定非営利活動法人 湘南マンション管理組合ネットワーク) はい。管理についてもマンションの工事の発注までお手伝いする。我々、一級建築士であるとか、マンション管理士の中には、そういう経験がある人もいますので、発注まで含めた工事、また、工事の最中のアドバイス、また、終わった後のフォローの体制というようなことも含めて対応できるように今はしているつもりです。マンションの最後まで見届けるというようなところを目指しております。

(山岡委員長) 今のお話の中で繰り返しになりますけれども、公的なサポートで行われている相談だけではなくて、中に入っていくという言葉を使われましたが、そこがこの事業の肝かなと思います。それは手数が結構かかると思うんです。この1年間の事業の中でそういうことをやったときに、管理組合に対して大体何件ぐらいそういう働きかけができるとお考えでしょうか。

あともう1つは、事業収入の中に、「研修交流会参加費」と「セミナー参加費」は費用をいただくことになっていますが、その最も肝であるところの相談をきっかけに中に入っていく。その部分の費用はいただかない予定なのか。この2点を教えてください。(特定非営利活動法人 湘南マンション管理組合ネットワーク) 相談事はあまり多くなく、年間20件ぐらいで、定期相談会をやっています。その中で相談事に来られる。その中で継続をしていこうというものについては、我々がその中に入ってやるのですけれども、先ほど言った顧問とかそういうのは、月に幾らというお金をいただいています。

それから、大規模修繕とか、規約の改正とかについては、1回当たり幾らという金額をいただいています。それなりの専門家がいますので、そういうところに紹介してやっていくということで、一応有償でやる部分があります。よろしくお願いします。

(山岡委員長) ただ、それもこの事業の一部だとすると、事業収入に計上していただいてもいいのではないかと思います。

(特定非営利活動法人 湘南マンション管理組合ネットワーク) 基本的には自分たちでやると商売になってしまう。我々としてはまだそこまでの体制が整ってないということで、紹介制度にしています。紹介して成約した場合に、幾らかの経費をいただくという形をとっています。紹介した金額の割には、我々としては収入が少ないというような現状ですので、活動がなかなか活発になっていかないのではないかなという危惧もちよっとあるのです。

(山岡委員長) ちなみに、それは年間何件ぐらいですか。

(特定非営利活動法人 湘南マンション管理組合ネットワーク) 紹介した案件は年間で5～6件ぐらいということですかね。

(森田委員) 課題として、やはりマンション管理に対する関心が低いということが述べられていましたが、もう少し入っていくと、管理組合があるけれども、その担当者の関心が低いのと、あとは、住民自体になかなか温度差があるというところは想像にかたくないかなと思うのです。

そうしますと、技術的なこともそうですけれども、もう少し要は人をどうやって巻き込んでいくかみたいな、ソフト面のコミュニティづくりとか、ファシリテーションみたいなものも必要になってくるのかなと思うのですけれども、そういったことも皆さんでやっていらっしゃるのでしょうか。それとも、それを課題と思っているのかとか、その辺を伺っていいですか。

(特定非営利活動法人 湘南マンション管理組合ネットワーク) マンションの区分所有法という法律があって、それに従って規約をつくっているんですけども、今の区分所有法の考え方は、建物を維持することだけで、その中に住んでいる人のコミュニケーションというのはあまり考えていないのです。我々としては、コミュニケーションがうまくいかなければ、建物がうまく維持できないよということを盛んに言っているのですけれども、国とか、そういうところでは、その辺はあまり考えてくれていないというところが不満ではあります。

おっしゃるように、コミュニケーションが図られなければうまくいかないというのは確かです。我々としてもその辺のアドバイスを。具体的に言うと、総会は1年に1回以上やっていますか、理事会は月1回やっていますか、大規模修繕のときには修繕委員会を設置してやるとうまくいきますよとか、そういうようなアドバイスはさせていただいております。

(坂井部会長) それでは、時間になりましたので、以上で終了となります。

特定非営利活動法人湘南マンション管理組合ネットワークの皆様、大変お疲れさまでした。ありがとうございました。(拍手)

では、団体の入れかえをお願いします。

(団体入れ替え)

③ふわふわの会

(坂井部会長) それでは、ふわふわの会の「発達障がいみんなのあるあるあつめ事業」について、発表をお願いします。

(ふわふわの会) きょうはこんな機会をいただきありがとうございます。ふわふわの会、大塚と申します。

(ふわふわの会) 西村珠江と申します。よろしく願いいたします。

(ふわふわの会) 私どもふわふわの会は、ここにありますとおり、大人の発達障がいの方、生きづらさを感じて引きこもっていらっしゃる方と、その家族と、支援していただく方などが集まっている会です。大人が対象なのです。お子さんではない。

私たちはまず家族会を始めましたが、すぐに気がついたことがあります。それは、引きこもる方の中に発達障がいの方がとても多い。これは当時、まだあまり注目されておりませんでした。でも、これを知っていただかなくてはいけないということで、私どもは広報、発達障がいのことを知っていただく活動に力を入れております。今しているのは、「あなたに開かれた音楽会」とか、かながわ県民センターで市民講座をなさっていますが、年1回、それに参加させていただいております。その関係で、横浜と藤沢で毎月交流会や定例会などをしております。

引きこもりと発達障がいというのはどういうことかなとお思いだと思います。今の大人の方は、子どものときに発達障がいという言葉聞いた方はほとんどいらっしゃらないと思います。とりわけ、もう30代になっている方は、そんなこと知らない、成人後にそういう言葉が突如出てきたような感じです。

生活する上でいろいろと困難がありますが、それはもう自分がわからないからいけない、ちゃんとできないからいけない、怒られるのは自分のせいだと思っています。周りも、「この人ちょっと至らない人だよね」、「ちょっと変わっていて扱いづらい人よね」ということで過ごしてきています。ご本人も、コミュニケーションに大変問題のある方が多いのです。なので、それは誤解ですということが言えない。またSOSも非常に出しにくいという特性があります。

そのまま来て、さあ社会に出て、とても厳しい局面になります。そうすると、もう疲れ果てているから、ちょっと一時避難として引きこもろうかということになってしまいます。それが今の引きこもりの方の一部です。

このような方たちに今までどおり社会的引きこもりという対応をしても、成果は上がりません。それは、根底に発達障がいがあるからです。この問題にアプローチしない限

り、改善はない。それはどういうことかという、ご本人がご自分の特性を理解し、受け入れることがすごく大事です。そして適切な支援のもとに対応を学んでいく。そして、失われてしまっている自信を取り戻していく。これが改善につながります。1年たてば1年、年をとってしまいます。社会復帰への道が遠のきます。引きこもりの改善が今の社会課題の解決に貢献できると考えております。

(ふわふわの会) ここで少し、発達障がいについての話をします。

発達障がいの世界に広く認知されたのは1990年以降、まだ最近のことです。しかし、それは主に子どもの発達障がいについてでありまして、大人の発達障がい知られたのは2000年に入ってからのことです。2017年ごろからNHKが発達障がいについての特集番組を組んだり、民放でも発達障がい者を主人公としたドラマ放送をするようになりまして、その存在については認識されるようになってきました。しかし、発達障がいとは子どものものだと思っている人がまだ多いのが現状です。

認識は少し進んできていますが、支援についてはどうでしょうか。子どもの支援については、国から支援モデルが提示され、地方自治体なども各関連機関と連携し合って支援が進められています。社会全体としても、みんなで支援していこうという流れになってきています。

それに比べて、療育などの支援を受けずに育った大人の発達障がい者と、グレーゾーンと呼ばれている、まだ診断されていない人たち、それらの人たちは困難を抱えたまま支援を受けられずに自力で頑張って生活しています。

2005年に発達障害者支援法が施行されました。それによりまして、一応、支援の枠組みはできました。しかし、支援する人の認識や知識が追いついていない状態です。支援者の問題、そして当事者の問題、そして社会の問題、これらの問題を解決していかなければ、先には進んでいけません。これらの問題を解決するためには何ができるのか考えているところです。

(ふわふわの会) とても大きな課題に、ちょっといきなりなんですけれども、私ども、どうしたら皆さんに知ってもらえるかなというのをさんざん話題にしていました。そこで、「あるあるあつめ」というのを考えました。

発達障がいのことを知っていただくためにはどうしたらいいか。発達障がいによる身近な困りごとを集めて、あるあると共感してもらったらどうか。キーワードは「楽しく軽やか」です。楽しみながら軽やかに発信することで、広くたくさんの人に興味関心を

持っていただき、へえ、そうなんだと思ってもらえたら、自分にもそういうことがあるかもと共感していただけるのではないかと期待しております。そして、周りの困難に対処するさまざまなことに正解はありません。多く集まれば、それがヒント集になります。これはとても期待していることです。

当事者には、自分だけじゃないと感じていただければ幸いです。同じような困りごとを抱えている仲間がここにいるよというメッセージを伝えたいと思っております。

(ふわふわの会) こんな感じのペラで配布したいと思っております。

(ふわふわの会) 表紙をあけて、こうです。

(ふわふわの会) この図は、「あるあるあつめ」をする前と後の、私たちが期待する変化を示しています。

ピンクは当事者の変化です。孤立とか諦め、不信感が、参加意欲や共感、安心感などに変わっていきます。ブルーは支援者を含む社会の変化を示しています。無知や偏見、無理解、無関心が、興味、理解、共感、そして関心などに変わっていけばと思っております。

(坂井部会長) では、時間になりましたので、発表はここまでとさせていただきます。

それでは、質問をさせていただきます。質問のある委員の方、お願いします。

(関野委員) 発達障がい自体が比較的新しいので、一定以上の年齢の方だと、それを認知されずにとということですよ。

一応、家族会さんということですがけれども、それより上の世代にも当然いらっしゃる可能性があると思います。そういった方たちも、いわゆる「あるある」の対象として考えられていますでしょうか。

(ふわふわの会) 年齢とかそういうことは全く考えておりません。

時間を読み違えておりましたすみません。私どもの目的は、ふじさわ障がい者プラン2026をお出しになっていらして、そこで「すべての人が、障がいの有無にかかわらず、お互いに助け合い、自分らしく、生活できるまちへ」というのがありまして、これはもう本当に私どもそのとおりで思っております。全ての人にとって住みよいまち、それは発達障がいがあるがなかろうが受容される世界だと思っておりますので、年齢は関係ありません。

ただ、私どもが対象とさせていただいているのは大人に限定させていただいております。それは、療育教育を受けている人と、私たちのように全くそういうことがないとき

に育ってきて、今、突然「あなたのことはこうなんだよ」と言われている人間の戸惑いというのは本質的に違います。対処方法も違いますので、私どもの会としては成人を対象とさせていただいております。

ただ、「あるある」に関しては、障がいの有無にかかわらず全ての方に見ていただきたいと思っております。

(関野委員) なぜこの聞き方をしたかという、上のほうの世代で発達障がいの方だと、世間で言う引きこもりのイメージとは違って、インターネットとかをされないだろうなと思ったので、だから紙を優先されているのかなと思った次第です。

(ふわふわの会) ありがとうございます。それが言いたかったのです。

発達の人というのは、プロのゲーマーさんがいたりして、ネットとかそういうものに強いというイメージですが、私どもの会に見える方は、「インターネット怖い」とおっしゃる方がいて、スマホも持ちたくない。だから、ご連絡方法がお手紙という方もいます。年齢がいかれると、当然、そういう環境にいなかったお育ちの方もいらっしゃるの、やはり紙媒体がとても有効だと思っています。

それと、これはある方に教えていただいたんだけど、あるところに置いてあるものは、やはり信用が違う。そこに配架されるために精査されているから、この信用はすごく大事だと教えていただいています。紙媒体ということにもこだわっております。

いい質問をしていただいております。

(山岡委員長) 収支予算のところですが、今回、全額助成金で全ての事業を賄うことになっていると思います。ただ、今後のところに「継続していきます」とありますが、どのように継続していくのかお考えを教えてくださいませんか。

(ふわふわの会) 私どもは、ふわふわの会として、今ステップアップを考えております。そのために「あるある」をツールとして考えております。これは幾つか号を出したら、あまり大部にならないうちに冊子としてまとめようと思っております。それは3月以降になると思います。

私どもも毎月の会のときに参加費を頂戴しているので、印刷代だけでしたら賄えるのです。ただ、今回、お願いしたのは、ステップアップするための踏み切りのための資金と、私どもで一番大きいのが、人に係ること、先生たちへの御礼です。そこら辺がクリアできればつながっていくと思うし、私どもはぜひこれを冊子にするまで頑張っていこうと思っているので、何とか自分たちでできる範囲でおさめる方法。それから、少しご

寄附などもいただいております。会が重なっていってご理解が得られれば、そういったことも今よりもちょっとあるのかなど、これはとらぬタヌキですが、期待いたしております。

でも、絶対に冊子まで持っていこうね、その先が見えるところまで行こうねというのは、みんなで話し合っております。

(坂井部会長) ほかにいかがでしょうか。——では、私から1点だけ。

お話しの中で、成人本人が、自分はこういう状態である、発達障がいであるということとちゃんと自覚するというか、そこが出発点になるということでしたけれども、なかなか受け入れがたいという人もいるのではないかと想像します。その辺あたりはどのように取り組まれるのでしょうか。

(ふわふわの会) おっしゃるとおり、受け入れられない人もいますが、なぜ自分はこんなに苦しいんだろうという疑問が解けないで苦しんでいる方もたくさんいらっしゃいます。この「あるある」のチラシを配ることによって、これはもしかしたら自分もそうなのかもしれないということに気づいてほしいという目的、それから、こんなに出ているということは、自分のほかにもそういうふう悩んでいる人がいるのではないかとということにも気がついてもらいたい。そして、そういう方たちがふわふわの会につながってくだされば、こちらのほうでその先のことを、いろいろな支援機関とか相談窓口などにつないだり、精神科の先生とかもいらっしゃいますし、協力してくださっている方もいますし、そういう方のところへつなげていければなと思っております。

(ふわふわの会) 先生方というよりも、私どもは次のステップ、それは別に就職とかではなくて、どこか支援団体さんにつながってくださって、ふわふわの会がもう必要なくなることを目的にやっておりますので、そんなところへ行けたらいいなと思っております。

(坂井部会長) ほかの方、いかがですか。よろしいでしょうか。

それでは、以上で終了といたします。ふわふわの会の皆様、お疲れさまでした。ありがとうございました。(拍手)

では、団体の入れかえをお願いします。

(団体入れ替え)

④NPO 法人 とことこ

(坂井部会長) それでは、NPO法人とことこの「『Wa project』ツナグⅡ」について、発表をお願いします。

(NPO 法人 とことこ) 皆様、こんにちは。NPO 法人とことこの濱田です。

(NPO 法人 とことこ) 萩野谷です。よろしくお願いします。

(NPO 法人 とことこ) とことこは、コロナ禍だからこそつながりの場をつくりたいとの
思いで、2021 年に活動を開始しました。鶴沼を中心にとことこ歩き始めてようやく
2 歳です。おかげさまでたくさんの笑顔を見ることができました。ミライカナエルのサ
ポートをしてくださった皆様、本当にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

私たちは楽しく地域交流をしながら、環境や防災、子育てから高齢者福祉まで、情報
共有をする場をつくっています。今年度は、特に第 3 の居場所づくりにも力を入れてい
きたいと思っています。

とことこには、助産師、子育て支援員、介護福祉士、社会福祉士、防犯指導員、学校
ボランティアほか、地域のベビーからシニアまでサポートしてきた心強いメンバーがい
ます。皆様の生活をさらに輝かせるお手伝いができるとうれしいです。笑顔の Wa を一
緒につくっていきましょう。

まずは定期で開催しているイベントを 4 つ紹介します。

1 つ目はあおぞらおはなしかいです。こちらは毎月第一土曜日ということで、きょう、
本当は午前中に七夕おはなしかいを予定していましたが、残念ながら雨で中止となって
しまいました。湘南一ツ星高等学院の生徒が手づくりの紙芝居を用意してくださる予定
でした。

退職後のサポーターさんが紙芝居を読んでもくださったり、地元の音楽家さんが演奏や
歌、それから農家の方が野菜の話をしてくださったりということで、多彩な地域の皆さ
んに特技を生かして盛り上げていただいています。きょうここにいらっしゃるあさがお
プロジェクトさんも、あさがおの種を持ってきてくださいました。地域団体の活動の場
にもなっております。

定期イベントの 2 つ目、つどいの場所とことこ Café。引っ越してきたばかりで子育
て奮闘中の方にも、実家みたいにくつろいいただきました。鶴中出身のバレエダンサ
ーなども遊びにきてくれたり、歯科衛生士さんがエプロンシアターをしてくれたり、い
ろいろと多彩なメンバーで楽しませていただいています。

鶴沼は移住者が多くて近隣の子育て支援センターもいまだに予約制ということで、も
っともっとたくさんの方に周知して利用していただければと思っています。

定期イベントの 3 つ目、藤が谷市民の家で見守りサポーターをしております。親子の

縁側、ベビーもワクワク、ママもにっこり、そしてサポーターはベビーに癒やされてほっこりというふうに、みんなが自然と笑顔になれるような、世代を超えた、ほっと一息つける第3の居場所がもっとあちこちにできたらいいなと思いながらサポーターをしています。

定期イベントの4つ目、ビーチクリーンです。鵜沼海岸でKFP鵜沼おやじパトロールの隊員の方ほかと協働して開催しています。藤沢には魅力的な団体がたくさんあります。ビーチスポーツ体験のコラボイベントなどで交流も楽しませていただいています。江の島ティラノサウルスレースの方も一緒にごみを拾っていただきました。学校でSDGsを習ったけれども、マイクロプラスチックを実際に見るのは初めてという子どもたちも、「本当に海にこんなにいっぱい落ちているんだね」と驚いていました。

このように、環境を身近に考えるきっかけづくりもどんどんしていきたいと思っています。

ここからは、今年のイベントで、ことしも同じように考えているものを幾つかご紹介します。

8月、夏休み親子企画ということで、地震体験と消防署見学を行いました。関東大震災からことしで100年になりますが、8月11日に企画しております。ボランティアさんに震災体験を伺って、本当に日ごろからの備えの大切さを再認識しました。鵜沼のような狭い道で大規模火災やゲリラ豪雨があったとき、水害があったときも活躍が期待できるような特別な車両の紹介を聞いて、おおっとどよめきが起きました。こういう機会もまたどんどんつくっていききたいと思います。

9月、鵜沼まち歩き。ちょうど江ノ電が開業120周年ということで、石上から鵜沼駅の間を歩きました。ただただ景色を楽しみながら気持ちよく歩いただけでなく、昔から氾濫を繰り返してきた境川やはす池の水害対策にも触れていきました。長く住んでいるけれども全然知らなかったということで、皆さん感動していただきまして、住み続けたいまちとして人気の鵜沼、今、市内13地区の中でも断トツの人口で約6万人、まだまだ見える見込みになっていますが、非常用の飲料水も不足すると思われます。各家庭での備蓄が欠かせないことなどもお伝えしました。

10月、小田急電鉄とのコラボ企画で片瀬江ノ島駅のイベントを開催しました。江ノ島五頭龍伝説という藤沢に伝わる伝説、昔話を紙芝居で読んでから駅の中を探検して、ロマンスカーの運転席にも入らせていただきまして、親も子もみんなワクワク盛り上が

っていました。

こちらは、先ほどお話しした毎月1回のおはなしかいに小田急藤沢駅の皆さんが遊びに来てくださったときの様子です。またことしも来てくださることになっています。

本鵜沼駅前商店街とコラボのハロウィンパレードです。道が狭く、車も自転車も多く、踏切もあると、通学中の子どもたちにはリスクがいっぱいの本鵜沼ですけれども、何かあったら子ども110番の家や商店街の方に助けを求めるようにと伝えました。このイベントを機に商店街のファンになった、顔見知りが増えてうれしいとの報告もたくさんいただきました。

こちらは有識者による防災講習会です。ことしも予定しております。

出張おはなしかいのリクエストもたくさんいただきまして、去年は15回以上、開催しました。その場でも防災や環境についてなども伝えています。

こちらは「SNSで地域のWa」です。Facebookグループで地域の魅力や課題なども共有しております。昨年立ち上げて、ことしでメンバー1700名を超えました。とことこの投稿を見てイベントに参加して会員になってくださった方もいらっしゃいます。

こちらで、去年の活動とことしの企画をお伝えさせていただきました。地域の方や団体、企業の方と楽しくつながりながら活動していければと思います。どうもありがとうございました。(拍手)

(坂井部会長) 発表が終わりましたので、委員の方、質問のある方はお願いいたします。

(関野委員) 発表お疲れさまでした。唯一、昨年度、助成を受けた団体からの申請となっております。ある程度、手応えとか、そういうものを感じられているかとは思いますが。

つながりづくりで子どもからシニアまでというところで、去年は防災がメインでしたけれども、内容自体はいろいろな変化があっても、そんなに違和感のない団体さんなので、そこはいいのですが、今の段階で結構広がりができていると思いますが、リーチしていない層とかも認識ができているのかというところと、そこへのアプローチみたいな部分を今年度の申請では考えられているかをお聞かせいただければと思います。

(NPO 法人 とことこ) 今回の申請のほうには企画としては出ていないのですが、実際、先ほどのふわふわの会さんのお話にもありましたけれども、発達障がいとか、体にハンデを抱えた方とも一緒に何かできればと常に考えております。

あと、ミライカナエルの皆様のサポートのおかげで、このようなTシャツもつくらせていただいたり、広報もできたおかげで、社会的な信用をいただいたと思っています。

おかげで、企業の方からもお声かけいただけているので、このつながりを、ここで終わりではなく、もう1年ほど甘えさせていただいて、さらに大きなものにして次につながられたらと思っております。

(森田委員) 今のコメントに関連しますが、今、ご報告いただいた写真とかを拝見させていただいても、基本的には、まずは小さいお子さんと親御さんがベースになって、そこを切り口にいろいろなところへ行かれて、シニアの方を巻き込んだりということなのかなと思います。そのシニアの方をメインの対象にされたようなイベントもあるのかどうか、そこから見えてきたまた次の展開みたいなものをお考えなのかどうか、教えていただきたいと思っております。

(NPO 法人 とことこ) 私からお話しさせていただきます。

去年やったことで紹介し切れなかったのですが、高齢者の方に向けて、特殊詐欺、防犯に関する講座をやらせていただきました。あと、認知症です。これは高齢者に限ったことではなく、ご本人もそうですが、家族が、なかなか現実と向き合うことが難しいご家庭もありますので、こんなことで困っていませんか、あんなことで困っていませんか、何か気になることがあったらこういう窓口がありますよとか、そういった講座をやらせていただきました。

やはり孤立している方がとても多いと感じました。これは高齢の方もそうですが、「こういうことがあったら詐欺ですよ」とか、毎日テレビで特殊詐欺のことをやっていますけれども、自分は大丈夫だろうとか、うちだけは大丈夫と思っている方がとても多いです。

実際、電話がかかってきたよとか、手紙が来たよとか、話をさせていただいて、こういったときには110番でいいのかなとか、そういったこともお話しさせていただきました。「何か困りごとがあったら、私たちの団体に電話でも何でもいいから来てね。そうしたらつなげますよ」ということをお知らせして、孤立している方が1人でも少なくなるように、お子さん連れからシニアの方まで、私たちはそういった活動をしてきました。

(NPO 法人 とことこ) あと、こちらのミライカナエル事業とは別ですが、4月に社会福祉協議会さんの後援をいただいて、「99歳 母と暮らせば」という映画の上映会をさせていただきました。そちらの谷光章監督が、私たちがおはなしかいをいつもやっている鶴沼の公園のすぐ近くに住んでいらして、そこのお住まいを使ってイベントなどもぜひやってくださいとお声かけいただきました。そこで、認知症に携わる方とか高齢

の方とかも一緒にお話しできるような会を設けていければと、ことしは企画を考えています。

そこで参加費をいただいて、そちらを私たちの活動資金などにも充てさせていただくかとも考えております。

(山岡委員長) 今回通ると、ステップアップの2回目なので、ミライカナエルとしては最後になりますよね。ちょっと気になるのは、収入がほとんど助成金になっているので、来年以降は問題ないかというか、どう考えているかというのが1点。

それと関連しますが、これだけ活動が広がっていて、いろいろな人とのかかわりがふえているけれども、賛助会員が3人というのはあまりふえていないのか、ふやしていないのか、そういうことはあまりお考えになっていないのかを教えてくださいませんか。

(NPO 法人 とことこ田) 私たちはお金をいただける機会をもっとつくっていこうと思いつながら、賛助会員さんにまだつながっていないところは課題です。ボランティアさんはふえているのですが、お金をいただいてという形で、お声かけがちゃんとし切れていないところがあるので、そこは課題としてちゃんと取り組んでいきたいと思っています。

(NPO 法人 とことこ) ミライカナエルはことしが最後になりますが、ことしは離陸準備を考えています。中の資料にも書かせていただきましたが、点字書籍をリユースした、このような封筒があります。認知度はないのですが、お知らせすると必ず売れます。こういったものとか、鶴沼で活躍されている写真家さんがつくられたカレンダーの委託販売もやらせていただいています。

それから、ビーチクリーンはいろいろな団体がやっておりますけれども、これはマイクプラスチックを拾ったものを入れる袋です。小さなお子さんが結構楽しんでやってくさるので、こういったものをつくって、ワークショップだったり物販につなげて、少しずつでも自立していこうと考えております。

(坂井部会長) それでは、時間になりましたので、以上で終了とします。大変お疲れさまでした。ありがとうございました。(拍手)

では、次の団体、お願いします。

(団体入れ替え)

⑤特定非営利活動法人 湘南FP相談室

(坂井部会長) それでは、特定非営利活動法人湘南FP相談室の「市民ファイナンシャルアカデミー創設事業」について、発表をお願いします。

(特定非営利活動法人 湘南 FP 相談室) 皆さん、こんにちは。私はNPO法人湘南FP相談室という名前で、昨年2月からNPO法人として活動しています。

我々の簡単なお紹介です。我々はファイナンシャルプランナーの技術者集団で、12人ほどいます。藤沢地区をメインにお客様といいますか、住民のいろいろなお金にまつわるご相談をしていこうということで、立ち上げた団体です。

こちらはNPO法人設立の設立趣意書から抜粋しましたが、今申し上げたとおり、我々自身が持っているエッセンスを住民の方に情報サービスしていこうという趣旨で書かれています。

我々は法人化の取り組み指針と今回の申し込みに当たって、大きく4つの柱を立てています。今回、こちらに申請を出させていただいた要素としては、1、市民を対象にセミナーを開催し、お金に関する知識を啓発しようというタイトルの部分と、3、公民館や市民活動推進センター、地域団体との協働事業の企画・立案・折衝・実行を進めるとともに、地域の催し物などに参加して相談事に対応していこうという、4つの中の2つをメインに、今回、申請を出させていただきました。

これはちょうど我々がNPO法人を設立してから各公民館等々のイベントと共催させていただいた取り組みです。

これがその活動のリストからメインになるような要素です。私どもが今一番、メインとして皆さんにアピールしているのが、市民活動推進センターで、毎月曜日、ファイナンシャルプランナーの相談コーナーを開設させていただいております。やっと少しずつ認知がされてきたかなという活動に、今、徐々にステップアップしているという状況です。

あとは、市民ギャラリーの展示とか、例えばプラザむつあいとか公民館関連の展示、市役所の市民ギャラリー等々で、我々の活動を実際に知っていただく、我々の持っているエッセンスを皆さんの生活の中に役立てていただくという活動をしています。

直近では、中学校向けに金融リテラシーの向上といった形で、ゲーム感覚ですけれども、やらせていただきました。180名ほどの中学3年生に向けて、金融リテラシー、キーワードは金融リテラシーとは言っていないですが、そういった協力をさせていただきました。この記事を見て、ほかの中学校のPTAの方からもご相談させていただけないかというお話が来ています。ありがたいことですが、こういった活動をしていることをご理解いただきたいと思います。

これは明治地区ですが、かるがもという、どちらかという中高年向けの福祉関連の団体になると思いますが、そういったところでのお話も今いただいて、直近ではこういった活動をしています。

約2年弱、こんな活動をしてきましたが、活動を通じて認識した課題が大きく4つあります。

我々自身はお金を稼ごうという団体ではないので、コストミニマムで公民館とかそういった公共施設をベースに活動していこうというのが基本でやってきました。問題を抱える人たちに公民館だったら情報が伝わるのではないかと考えてきましたが、思うのと現実にはギャップがありまして、ほとんど情報が伝わっていかないといったところが、我々の非常に認識しているところです。

あと、セミナーとかイベントを、残念ながら我々が主導ではなく、我々の提案、どうですかということで、公民館さんにプランを立てていただいて、その上に我々のエッセンスを載せていただくということをずっとやってきたものですから、独自のプログラムを持っていない。

あと、実際、セミナーとかに参加されると、「これいいよね。でも、いろいろなところでやっていないよね」とか、「もっともっというろいろなことを知りたいよね。ほかにはやっていないの?」とか、そういったお話は毎回毎回いただきます。

あと、この類いの問題は10人いたら10人同じお話ではないので、セミナーという通り一遍で、ある程度の網羅的なお話では物足りない、こういったところが課題としてありました。

我々はこういうコンセプトでつくっていますが、今回の部分は教育分野とか講演事業というカテゴリで活動しています。

申請取組内容の再定義は、要は一番最後の部分、社会の変化に対応できるリスキリングが必須だろう。それは、先ほど学校の話をしていただきましたが、親御さんの方々ですか、我々よりもう少し若い人たちにそういった教育が足りないよね、そういう研修プログラムも勉強会もなかったよね。なので、それを我々として実現していこうというので、仮称ですが、アカデミーというプログラムをつくって、今回、こちらに提案させていただいたという状況です。

実施プログラムイメージはこんな感じで、半年で6回を今フォーカスしています。使うテキストは、実は日本FP協会の中で、社会人向け、学生向け、高校生向けというテ

キストが既にあるので、それにプラスして我々のエッセンスを踏まえてつくっていこう。大まかな形はもう既にできています。

「これは個別型ではないの？」というご意見があったので、そういった部分も検討しています。

こちらは日本FP協会のほうで、こういったベースモデルはどうだという提案があります。

国は、金融経済教育研究会報告書を見ていただくと、どういうカテゴリーで教育をすべきかというリスキリングがされています。これが国の方針として出している内容です。我々のプログラムとしては、それにマッピングして、その内容をプログラムに組み込もうということをやっています。

こちらは進め方です。

これもご参考です。これは金融庁が出している内容で、どういうことができるか、知っているべきかというリストです。

これは学校関連。

これは教育関連のアンケートの結果です。この中では、ゲーム感覚でもいいから体験をと考えているので、そういう教育プログラムを考えていこう。

2つ目は、ポイントはやはり親御さんです。親が正確な情報を子どもに教えられないという結果が出ているので、そこの部分を我々がプログラムとして提供していきたいということです。

質問事項をいただいています。大切な分野なので、我々自身、そういうことを踏まえて提案させていただきました。助成金が広告費用に偏っている、一番言いたいのはここです。我々は公民館と連携したいと思っているんですが、公民館が賛成してくれない、ここが一番の課題です。きょう言いたいことはここです。

時間なので終わりにします。

(坂井部会長) 発表が終了しましたので、質問に移ります。質問のある方はお願いします。

(山岡委員長) 2/3 と 3/3 も見たいです。

(坂井部会長) では、今のプレゼン資料の 2/3 と 3/3 を簡単にご説明いただけますか。

(特定非営利活動法人 湘南 FP 相談室) 我々は公民館と一緒に連携してやりたいとずっと申し上げていました。

藤沢市には 13 の公民館がありますが、私は初めから藤沢の公民館を全部ローラーさ

せていただいて、我々が持っているエッセンスをこういうふうにやりませんか。その下に、今度は自治会がひもついています。自治連という組織体があつて、そこに対してこれを提案してほしいということで全部ローラーしましたが、そこで全てとまっています、現場に伝わっていない。

だから、市民活動推進センターと、恐らく公民館を推進しているのは生涯学習総務課かな、その連携がないんじゃないのということを、きょう一番言いたいところです。お金をくれというよりも、制度を変えてほしいというのが、きょうの一番のメッセージです。これさえできていれば、私はここで一々これを申し上げる必要はありません。2/3 に書いてありますが、公民館の戸別配布がどういうものか、皆さんご存じかしら。その制度の上に乗せてくれというのが一番言いたいところです。伝わりましたかね。(坂井部会長) あとは、それぞれ資料を見てもらうということにさせていただきたいと思っています。

そのほか、質問のある方はお願いします。

(特定非営利活動法人 湘南 FP 相談室) 一応、さらっと流しましょうか。重たい部分は書かせていただきました。一番言いたいのはここに書いてある部分です。

こちらで一生懸命団体を推進しようと言っているのに、公民館はそんなのできないと断ってくる。それって何なの。あめとむちみたいな話になるので、そこは皆さんきょうこういう場にいらっしゃるので、ぜひ実施してほしいと思います。

(坂井部会長) 今のお話と関連するかもしれませんが、今回はこの補助金を使って、ご提案のようなことをしたい。次年度以降についてはどのように考えていますか。

(特定非営利活動法人 湘南 FP 相談室) この制度をつくっていただければ、お金の申請なんて私はしません。

(坂井部会長) ということは、制度がつくられないとお金が必要ということですか。要するに、この制度がつくられればお金は要らないよと。

(特定非営利活動法人 湘南 FP 相談室) 極端に言うと、そういうことです。

(坂井部会長) 制度がつくられないとどうなるんですか。

(特定非営利活動法人 湘南 FP 相談室) もう運用ができていのに何でそこに乗せてくれないんですかというのが、私が言いたいことです。

(坂井部会長) 私が伺ったのは、制度がつくられればいいということだと思いますが、制度がつくられなかったらどうなるんですかということです。

(特定非営利活動法人 湘南 FP 相談室) ほとんど活動できないですかね。お金がある範疇でしか、小さい単位でしかできないかなと思います。これからもいろいろな組織・団体さんに提案はしていこうと思いますけれども。

皆さんご存じだと思いますが、公民館の中に毎月2回、全戸別に配布するという運用ができています。ここに、こういうプロモーションをしたいという思いの団体さんがチラシなり情報を発信するという仕掛けを乗せてほしいというのが、きょう私が一番言いたいことです。

(坂井部会長) 今おっしゃられたことは、これまでも言ってきたということですか。

(特定非営利活動法人 湘南 FP 相談室) 言ってきました。公民館からはさんざん、それはできない、できない、できないと、ほぼ全公民館から言われました。「じゃ、できる仕掛けを教えてくれ」と言ったら、「すみません、できません」という答えでした。なので、きょうここに改めてそのメッセージを言いたいです。

できたら全然問題ないですよ。ほかの団体さんもすごく楽になると思いますよ。

(坂井部会長) 参考までに伺いますが、できない理由というのは何か。

(特定非営利活動法人 湘南 FP 相談室) 自分たちの「事業」と彼らは言いますが、我々が提案した内容はそういう事業に乗せられないというのがコメントでした。なので、皆さんにできる仕掛けを実現してほしいというのが、きょう私が一番言いたいことです。

(坂井部会長) わかりました。

では、ほかにご質問のある方、お願いします。

(豊福委員) そうしたFPに関するセミナーとかは、一般の営利企業が、証券会社、銀行、保険会社、いろいろなところがやっていますよね。そういう一般のところやるのは、将来、自分の会社の商品が売れることにつながればいいということで、多分されているのだと思います。それと、ここでお話しいただいているところは全く違うのですか。

(特定非営利活動法人 湘南 FP 相談室) 全く違うという表現は、私はそこは否定しないんですけれども、ここに書いてあるとおり、メーカーさんは我田引水型なんです。A社、B社、C社の商品があって、自分たちは、この商品であれば、それを皆さんに「すごくいいよ」と言って押し込むと言い方ではないですか、売る。

ここには書いていませんが、我々は中立な立場で、A社の商品がいいというのではなくて、お客さんの悩みに対して、だったらこの商品、もしくはこういうサービス、もしくはこういう実現の仕方がありますねという提案をしています。

最近の事例のお話をさせていただきます。ある70代のお母様に身障者の50歳の娘がいます。このライフプランを相談したい、家族信託を組みたい。でも、どこに言ってもいかわからない。銀行さんに言ったら、「うちは200万円出せばできますよ」という答え。こっちに言ったら、「すみません、おたくはできません」。現実には、私が代理でお話を聞いてあげたらそういう答えだった。

では、この人を誰がケアするんですか。それは中立的な立場で情報発信していく我々の役目だと思っているので、そういった情報発信を我々はしていく、サービスをしていく、その方の悩みについて、本当に水が飲めるところまでつれて行く。それが我々のゴールかと思えます。

(森田委員) できるだけ多くの方に知っていただきたいという強い思いがあることは伺いましたが、例えば紙以外の媒体、SNSとか、ホームページとか、その辺の取り組みとその効果はいかがでしょうか。

(特定非営利活動法人 湘南FP相談室) 皆さんそれをおっしゃるのはすごくよくわかります。我々もホームページとかをやっていたり、LINEを使ったり。最終的にそのチョイスは、そのリテラシーを持っている人しか伝わらないんです。我々はどちらかというと高齢者が多いのですが、その人たちはファクスか電話なのです。その人たちにどうやって届けるのか。話を聞くと、チラシを見たとか、「タウンニュース」を見たとか、そっちの媒体がメインです。Webに申込用紙がありますが、Webでは申し込んでこないんです。

そういう事実も踏まえたら、それを否定しているのではなくて、いろいろなチャンネルを踏まえてやっていくことが現実的なので、それは当然やっていますし、これからももう少しバイブレーションはしていきたいと思っています。

でも、現実的に伝わる手段は、私が今感じているのは、まだ残念ながら紙かなど。

(森田委員) 伺ったのは、先ほどの意識調査の中で、もう少し若い世代にも金融リテラシーが必要だということを結構強調されていたので、その件については、戸別よりはSNSのほうがいいという場合もあると思います。

(特定非営利活動法人 湘南FP相談室) それは当然です。

(森田委員) もう少し幅広く活動展開を考えていらっしゃるということですね。

(特定非営利活動法人 湘南FP相談室) YouTubeを使うとか、当然そういうことも考えています。メンツとカネがないのでなかなかたどり着かないのですが。

(坂井部会長) それでは、時間となりましたので、以上で終了となります。特定非営利活動法人湘南FP相談室さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。(拍手)

以上で、全ての団体のプレゼンテーションが終了しました。団体の皆様におかれましては大変お疲れさまでした。熱心ですばらしい発表をいただいたと思います。ありがとうございました。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

(坂井部会長) ここで、事務局にお返しします。

(事務局) 坂井部会長、ありがとうございました。団体の皆様も、発表ありがとうございました。結果は、後日郵送にてご案内をいたします。

以上をもちまして、本日の公開プレゼンテーションは終了となります。終了時間が少し延長してしまいまして申しわけございませんでした。

委員の皆様は、このまま休憩をとっていただきまして、こちらの時計で午後4時50分から引き続き本会場で審査会を行いますので、よろしく願いいたします。

発表団体の皆様、傍聴者の皆様におかれましては、出口にてアンケート用紙を回収いたしますので、できましたらご提出の上、お忘れ物のないようお気をつけてお帰りくださいませ。

この後、こちらの会場はこのまま使用いたしますので、大変申しわけございませんが、速やかなご退席にご協力をお願いいたします。

朝日町駐車場にお車をとめた方で、まだ駐車券の処理をされていない方がいらっしゃいましたら、事務局の職員までお渡しください。

本日はありがとうございました。(拍手)

(団体退出)

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

午後4時39分 休憩

午後4時50分 再開

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

(2) 審査選考

(藤沢市情報公開条例第6条第3号に基づき非公開)

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

○スタート支援コース・ステップアップ支援コースの審査選考において、スタート支援コースの採択団体は「高校生ミュージカル Aqua」、「サニーデイサーフクラブ片瀬西浜」、「江の島ティラノサウルスレース実行委員会」、「藤沢市プレスクール教室」、「あさがおプロジェクト」、ステップアップ支援コースの採択団体は「特定非営利活動法人 湘南マンション管理組合ネットワーク」、「ふわふわの会」、「NPO 法人 とことこ」と決定された。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

閉会

(山岡委員長) それでは、最後に事務局より連絡事項をお願いいたします。

(事務局) 本日は長時間にわたり、ありがとうございました。

採択結果につきましては、後日、団体へ郵送いたします。また、結果の送付にあわせて、本日、ご記入いただきました「団体への意見表」についても団体へお送りいたします。ご記入いただきました「団体への意見表」は、こちらで回収させていただきます。まだ記入途中の方がもしいらっしゃいましたら、7月3日(月)中までに事務局までメールでお送りいただければと思います。メール本文ベタ打ちで構いませんので、よろしくをお願いいたします。

次回の委員会ですが、次回は10月2日(月)の午後6時からとなります。詳細につきましては、後日、開催通知をお送りいたしますので、そちらでご確認くださいようお願いいたします。

最後に、本日、朝日町駐車場にお車をとめた方につきましては、駐車券を認証装置で処理いたしますので、駐車券をお渡してください。

事務局からは以上です。

(山岡委員長) 長時間にわたり、本当にありがとうございました。

以上をもちまして第4回藤沢市市民活動推進委員会を閉会いたします。

午後6時13分 閉会